

令和 4 年 度

事業報告書



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

福岡県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

はじめに

令和4年度は12月に福岡県日赤紺綬会第62回総会を福岡市において開催いたしました。日本赤十字社名誉副総裁寛仁親王妃信子殿下の御臨席こそ叶いませんでしたが、当県支部を応援していただいております多くの方々にご出席いただきました。

また、青少年赤十字が創設から100周年を迎え、福岡市内の小学校にて記念大会を開催しました。加盟校や指導者に対し、表彰を実施するとともに、特色のある活動を実践している加盟校（園）の活動紹介や気象予報士の記念講演などを行いました。

さらに、今後発生が予測される大規模災害が発生した際に、久留米赤十字会館をロジスティクスセンターとして活用するため、九州内の各県支部と合同で「九州八県支部合同災害救護訓練」を実施しました。当会館の拠点機能の拡充を図ってまいります。

国際活動では「ウクライナ人道危機」や「2023年トルコ・シリア地震」などの救援金募集をはじめとする支援活動にも取り組みました。

新型コロナウイルス感染症の感染状況の改善を踏まえ、救急法等の講習や防災セミナー、救護訓練を集合形式で実施するなど、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ための活動を積極的に行いました。

令和5年度も引き続き、日本赤十字社の使命を果たすため、各種事業に取り組んでまいりますので、赤十字活動に対するより一層のご支援をお願い申し上げます。

目 次

I 事業実施状況

1	国内災害救護	1
2	救急法等の講習	10
3	青少年赤十字	15
4	国際活動	21
5	赤十字奉仕団	24
6	活動資金の募集	29
7	広報	32
8	看護師等の養成	35
9	医療事業	37
10	血液事業	43
11	社会福祉事業	48

II 付 表

1	主な行事	53
2	支部管内施設	54
3	支部機構	55
4	支部役員名簿	56
5	支部沿革	57

I 事業実施状況

1 国内災害救護

日本赤十字社は、災害救助法や災害対策基本法などで、国や地方公共団体の救護活動に協力することが義務付けられており、赤十字の人道的任務として「医療救護」「こころのケア」「救援物資の備蓄と配分」「血液製剤の供給」「義援金の受付と配分」など多岐にわたる災害救護活動を行っています。

令和4年度は、7月に九州各地における警報級の大雨や3つの大型台風が発生しました。被害が拡大する恐れがあったことから、当県支部では職員がいち早く参集し情報収集をするとともに、九州ブロックの代表支部として、各県支部及び本社と連携し、迅速な情報の共有を図りました。

また、大規模災害時に全国から集結する救護班要員の集結拠点としての機能を評価し、今後の機能強化に活かせるよう久留米赤十字会館を中心とした訓練を九州八県支部合同で実施しました。当会館は今後、九州ブロックのロジスティクス・センターとして拡充します。

1. 災害救護活動の体制及び整備

(1) 救護員の体制

災害発生時において被災地の医療の空白を埋めるため、迅速に救護班を派遣して被災者や傷病者を救護する体制として、県内に常備救護班を16班編成し、訓練を受けた職員108人を常備救護班員として登録しています。

常備救護班の編成状況

令和4年4月1日現在

施設名	班数	常備救護班員登録数					計
		医師	看護師長	看護師	薬剤師	主事	
福岡赤十字病院	12	12	12	24	12	24	84
今津赤十字病院	2	2	2	4	0	4	12
嘉麻赤十字病院	2	2	2	4	0	4	12
計	16	16	16	32	12	32	108

※常備救護班編成基準 医師1人・看護師長1人・看護師2人・主事（事務）2人 計6人
福岡赤十字病院の救護班のみ薬剤師1人を加えて編成しています。

（２）救護員の訓練

赤十字の救護員として必要な基礎知識や技術を学び、災害が発生した現場において、救護活動が迅速かつ的確に行えるよう、日本赤十字社救護規則第 13 条に基づき、災害救護訓練を実施しています。

令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症が流行している中においても、感染対策を講じながら実動形式の訓練を実施し、救護員の育成に努めました。

ア. 支部主催訓練

訓練名	開催日	開催場所	開催方式
支部職員対象非常招集訓練	4 月 19 日（火）	日本赤十字社福岡県支部	実働形式
救護員育成訓練（共通課程）	5 月 16 日（月） ～ 5 月 31 日（火）	管内施設	動画視聴形式
救護医師、救護看護師 基礎・応用合同訓練	6 月 30 日（木）	日本赤十字社福岡県支部	実働形式
救護主事基礎訓練	7 月 28 日（木）	日本赤十字社福岡県支部	〃
救護主事応用訓練	7 月 29 日（金）	久留米赤十字会館	〃
支部災害対策本部運営訓練	10 月 28 日（金） 10 月 31 日（月）	日本赤十字社福岡県支部	〃

イ. 行政等主催訓練

訓練名	開催日	開催場所	開催方式
福岡市市民総合防災訓練 【南区会場】	5 月 21 日（土）	筑紫丘小学校	実働形式
福岡県総合防災訓練	5 月 29 日（日）	カブトの森運動公園 健康広場	〃
福岡空港 航空機事故対策部分訓練	10 月 5 日（水）	福岡空港	〃
福岡市災害対策本部図上訓練	11 月 25 日（金）	福岡市役所	図上形式
福岡県国民保護図上訓練	1 月 26 日（木）	福岡県庁	〃



トリアージ訓練の様子
(救護医師・救護看護師基礎・応用合同訓練)



基礎行動訓練の様子
(救護主事応用訓練)



救護所での傷病者受入訓練の様子
(福岡県総合防災訓練)



災害関係機関との救護班派遣調整の様子
(福岡市災害対策本部図上訓練)

(3) 九州八県支部合同災害救護訓練

当県支部では、大規模災害時に久留米赤十字会館をロジスティクス・センターとして活用するため、全国の赤十字支部から参集する救護班の集結拠点としての機能や情報収集・連絡調整など災害救護活動の拠点機能を充実させるよう整備を行っています。

本訓練では、災害救護業務担当者を中心に構成される九州八県支部合同災害救護訓練運営委員会で訓練実施計画の企画調整を行い、当県支部庁舎、久留米赤十字会館の2会場で、1) 久留米赤十字会館のロジスティクス・センターとしての活用、2) ブロック代表支部と各県支部との情報共有・連絡調整、3) 相互支援及び受援体制の確立、の3項目を訓練主眼とし、コントローラーによる状況付与のもと実働訓練を実施しました。

開催日：令和4年11月3日(木・祝)～4日(金)

場 所：日本赤十字社福岡県支部

久留米赤十字会館

参加者：41名(内訳：福岡県支部16名、九州他県支部22名、本社救護課3名)



支部災害対策本部の運営の様子



支部災害対策本部会議の様子



支部災害対策本部とロジスティクス・センター間での ICT を用いた救護班の到着報告の様子



ロジスティクス・センター運営職員と他県支部応援救護班での情報共有の様子

(4) 赤十字防災セミナーの実施

日本赤十字社では、人々のいのちをまもるために、地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高める「防災教育事業（通称：赤十字防災セミナー）」を展開しています。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症に対する制限が緩和され、集合形式における防災セミナーを実施しました。

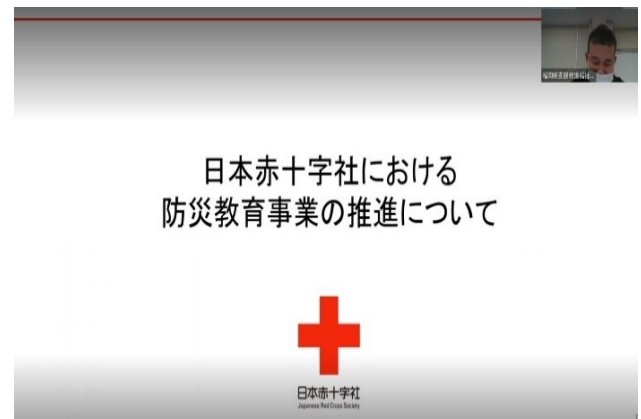
また、セミナーの講師を担当している防災教育事業指導者を対象に WEB 形式での意見交換会を実施し、本事業の現状と普及に向けた取り組みについて検討しました。

開催日	受講団体	対象	人数	内容
5 月 16 日（月）	新宮町食生活改善推進会	食生活改善推進委員	26 名	災害への備え
5 月 17 日（火）	古賀市食生活改善推進員	食生活改善推進委員	24 名	〃
6 月 3 日（金）	須恵町食生活改善推進協議会	食生活改善推進委員	21 名	〃
6 月 6 日（月）	筑紫野南コミュニティセンター	地域住民	15 名	〃
6 月 21 日（火）	日本赤十字九州国際看護大学	地域住民	13 名	〃

7月9日（土）	自由ヶ丘2区3区会	地域住民	55名	災害への備え
8月23日（火）	新宮町社会福祉協議会	地域住民	25名	〃
8月31日（水）	日本赤十字九州国際看護大学	学生	42名	〃
9月8日（木）	日本赤十字九州国際看護大学	学生	62名	〃
12月4日（日）	和白東2丁目町内会	地域住民	42名	〃
12月20日（火）	新宮町自治会花立花福祉会	地域住民	15名	〃
1月24日（火）	えーるピア久留米生涯学習センター	地域住民	62名	〃
2月19日（日）	日赤福岡県支部防災ボランティア会	奉仕団員	13名	〃
2月23日（木）	NPO法人宗像市の歴史文化遺産を守る会	地域住民	28名	〃
2月25日（土）	太宰府市水城ヶ丘区自治会	地域住民	43名	〃
2月28日（火）	久留米市山本校区女性防火クラブ	地域住民	14名	〃



えーるピア久留米生涯学習センターでの
防災セミナー（講義）



ICTを用いた防災教育事業指導者意見交換会

（５）災害発生時に必要な資機材の整備

災害発生時において、現地で活動する際の救護所及び救護班の宿泊場所として使用可能なエアータントの更新や久留米赤十字会館をロジスティクス・センターとして活用するため、災害情報収集用のテレビモニターや、救護班の宿泊の際に使用するワンタッチパーテーション、スリーピングマットなどを整備しました。



ワンタッチパーテーション



救護員宿泊用スリーピングマット

２．救援物資の配付及び備蓄状況

県内はもとより、隣接県等における広域災害時に備えて、支部救護倉庫、久留米赤十字会館、福岡県赤十字血液センター北九州事業所などに救援物資を備蓄しています。

令和４年度に発生した災害に対して、次のとおり救援物資を配付しました。

ア．地区・分区及び他県支部への配付状況

令和５年３月３１日現在

毛布（枚）	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	計
広川町	10												10
みやこ町					10								10
長崎県支部							300						300
糸島市							80						80
行橋市							10						10
みやま市										10			10
豊前市											20		20
計	10	0	0	0	10	0	390	0	0	10	20	0	440

緊急セット（組）	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	計
みやこ町					6								6
長崎県支部							120						120
糸島市							6						6
八女市							30						30
柳川市							6						6
大牟田市							6						6
福岡市東区								6					6
豊前市											6		6
計	0	0	0	0	6	0	168	6	0	0	6	0	186

タオルセット（組）	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	計
みやこ町					20								20
福岡市東区								20					20
みやま市										20			20
豊前市											20		20
計	0	0	0	0	20	0	0	20	0	20	20	0	80

医薬品セット（組）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
みやこ町					10								10
糸島市							10						10
八女市							30						30
柳川市							10						10
大牟田市							10						10
福岡市東区								10					10
豊前市											10		10
計	0	0	0	0	10	0	60	10	0	0	10	0	90

タオルケット（枚）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
糸島市							60						60
みやま市										10			10
豊前市											10		10
計	0	0	0	0	0	0	60	0	0	10	10	0	80

イ. 備蓄状況

令和5年3月31日現在

物資名	前年度繰越	受入	配分数	在庫数
毛布（枚）	16,871	0	440	16,431
緊急セット（組）	5,962	0	186	5,776
タオルセット（組）	5,427	0	80	5,437
医薬品セット（組）	2,470	0	90	2,380
タオルケット（枚）	9,724	0	80	9,644
安眠セット（組）	2,916	0	0	2,916

※在庫数は、地区・区分置保管数含む

3. 災害義援金受付状況（福岡県支部受付分）

国内で甚大な被害が生じた場合に災害義援金の募集を開始し、被災地に設置される義援金配分委員会に全額を届けます。

令和4年度は、令和4年7月大雨災害をはじめとする以下の義援金を引き続き受け付けました。

令和4年4月1日～令和5年3月31日

義援金名	金 額 (円)
平成 30 年 7 月豪雨災害義援金	17, 115
令和 2 年 7 月豪雨災害義援金	8, 407, 595
令和 3 年 8 月大雨災害義援金	3, 543, 217
令和 4 年 3 月福島県沖地震災害義援金	1, 831, 645
令和 4 年 7 月大雨災害義援金	48, 346
令和 4 年 8 月 3 日からの大雨災害義援金	482, 907
令和 4 年台風第 15 号災害義援金	42, 800

4. 臨時救護

医療救護を必要とする公共性の高い行事、式典等における傷病者の発生に備えて初期救護を行うため、救護員を派遣しております。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の行事が中止となりましたが、以下の行事については、主催者に健康チェックやアルコール消毒を徹底するなどの感染症対策を十分に実施していただいたうえで、管内施設の医師・看護師等を派遣しました。

ア. 臨時救護実績

No.	救護名	場所	期日	施設名・人員	受診者数
1	第 61 回福岡市民の祭り 博多どんたく港まつり	福岡市役所 西側ふれあい広場 アクロス福岡前	5 月 2 日 (月) (16:00～21:00) 5 月 4 日 (水・祝) (14:00～20:00)	福岡 (看 1) やすらぎ (看 1) 福岡 (看 1) 豊 寿 (看 1)	3 名
2	福岡市戦没者合同追悼式	福岡市民会館	6 月 19 日 (日)	福岡 (看 1)	0 名
3	令和 4 年 異年齢交流で育て！ 青少年育成キャンプ	国立諫早青少年自然の家	8 月 3 日 (水) ～ 8 月 6 日 (土)	福岡 (看 2)	10 名
4	令和 4 年度福岡県戦没者追悼式	福岡県立 福岡武道館	8 月 15 日 (月)	福岡 (医 1、看 1)	0 名
5	秋季慰霊大祭	護国神社	10 月 9 日 (日) 10 月 10 日 (月・祝)	福岡 (看 1) 福岡 (看 1)	1 名
6	西区スポーツフェスタ 2022	今津運動公園	10 月 23 日 (日)	今津 (看 1)	2 名

7	福岡県伐倒技能選手権	山田緑地	10月31日(月)	嘉麻(看1)	0名
8	地下鉄カウントダウンイベント	橋本車両基地	11月6日(日)	今津(看1)	2名
9	福岡マラソン2022	福岡市 糸島市	11月13日(日)	福岡(医3、看6、理2) 支部(主4)	48名
10	第27回福岡市障がい者スポーツ大会 (レクリエーション大会)	福岡市総合体育館	11月23日(水・祝)	福岡(看1)	0名
11	福岡県日赤紺綬会第62回総会	福岡市	12月16日(金)	福岡(看1)	0名
12	ふくおか“きずな”フェスティバル	クローバープラザ	2月19日(日)	福岡(看1)	0名
計				派遣人員 32名	66名

イ. 救護員派遣実績

施設名	医師	看護師	主事	計
福岡赤十字病院	4	17	2	23
今津赤十字病院	0	2	0	2
嘉麻赤十字病院	0	1	0	1
大寿園	0	0	0	0
やすらぎの郷	0	1	0	1
豊寿園	0	1	0	1
福岡県赤十字血液センター	0	0	0	0
日本赤十字社福岡県支部	0	0	4	4
計	4	22	6	32

2 救急法等の講習

赤十字が行う講習は、身近な人を救うためのとっさの手当や日常生活での事故防止をはじめ、乳幼児から高齢者に至るまで幅広いライフステージに応じた健康安全に関する知識や技術の普及を行っています。

当県支部では、新型コロナウイルス感染症流行下の令和4年度において、本社が策定した感染対策ガイドラインをもとに、受講者及び指導員の安全を第一に感染防止策を講じたうえで、講習を実施しました。

また、対面や集合型講習の代わりとして、ICTを活用したオンライン講習を取り入れ、総計404回10,973人の方々に対して講習を実施しました。

令和4年度に実施したすべての講習において、講習を起因とするコロナウイルス感染症陽性者の報告はありませんでした。

1. 講習実績（総計404回10,973人）

（1）救急法

心肺蘇生やAEDの使い方などの一次救命処置を学べる救急法基礎講習と、急病やけがに対する応急手当、搬送、災害時の心得などを学べる救急法救急員養成講習は、感染対策ガイドライン（日本赤十字社策定）をもとに通常通り接触を伴う実技を含めて実施しました。特に救急法基礎講習の一次救命処置では、飛沫感染の防止の目的から引き続き人工呼吸の実技は控えています。

さらに、地域や学校等から依頼のあった救急法をはじめとするすべての講習は、主催者に感染防止策を十分に講じていただくことを前提に実施しました。

種 別		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
基礎講習	回数	29	29	3	27	37
	人数	722	864	102	429	896
救急員 養成講習	回数	17	14	0	3	19
	人数	509	405	0	28	399
短期講習	回数	197	214	77	113	162
	人数	8,763	8,598	1,864	4,587	5,634
計	回数	243	257	80	143	218
	人数	9,994	9,867	1,966	5,044	6,929



一次救命処置（心肺蘇生・AED）



三角巾を使ったきずの手当

（２）水上安全法

水を活用して健康の増進を図り、水の事故から生命を守るための泳ぎの基本と事故が発生した際の救助の方法を学ぶ水上安全法救助員Ⅰ養成講習は、接触を伴う実技が多く占めているため、感染リスクを考慮し支部が主催する講習の実施を見送りました。

また、児童・生徒の着衣状態で起きる水の事故を未然に防ぐため、教職員を対象とした着衣泳体験指導を行う短期講習を、３年振りに福岡市教育委員会と協働し実施しました。

種 別		平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度
救助員Ⅰ 養成講習	回数	5	5	0	0	0
	人数	62	67	0	0	0
短期講習	回数	52	66	2	7	24
	人数	3,372	4,646	23	413	682
計	回数	57	71	2	7	24
	人数	3,434	4,713	23	413	682



ランドセルを使った着衣状態の入水体験



浮き具を使った浮き身の方法

(3) 健康生活支援講習

高齢者の健康増進や介護予防、地域でのボランティア活動及び家庭での介護に役立つ内容を学べる健康生活支援講習支援員養成講習は、感染対策ガイドライン（日本赤十字社策定）をもとに通常どおり接触を伴う実技を含めて実施しました。

種 別		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
支援員 養成講習	回数	7	3	1	2	6
	人数	90	20	8	24	54
短期講習	回数	110	93	42	36	52
	人数	3,070	2,888	953	762	1,194
計	回数	117	96	43	38	58
	人数	3,160	2,908	961	786	1,248



車椅子介助による段差の上がり方



ベッド上での起き上がり介助

(4) 幼児安全法

子どもに起こりやすい事故の予防と手当、かかりやすい病気の看病の仕方などを学べる幼児安全法支援員養成講習は、感染対策ガイドライン（日本赤十字社策定）をもとに通常通り接触を伴う実技を含めて実施しました。特に乳幼児の一次救命処置では、飛沫感染の防止のため、引き続き人工呼吸の実技は控えています。

種 別		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
支援員 養成講習	回数	10	11	0	0	3
	人数	98	125	0	0	50
短期講習	回数	112	109	51	64	101
	人数	1,799	1,762	631	1,070	2,064
計	回数	122	120	51	64	104
	人数	1,897	1,887	631	1,070	2,114



乳幼児の一次救命処置（心肺蘇生・AED）



乳幼児の一次救命処置（気道異物除去）

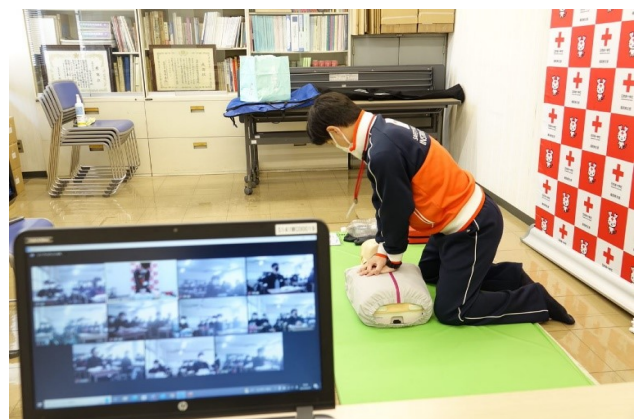
2. ICT の活用による講習の推進

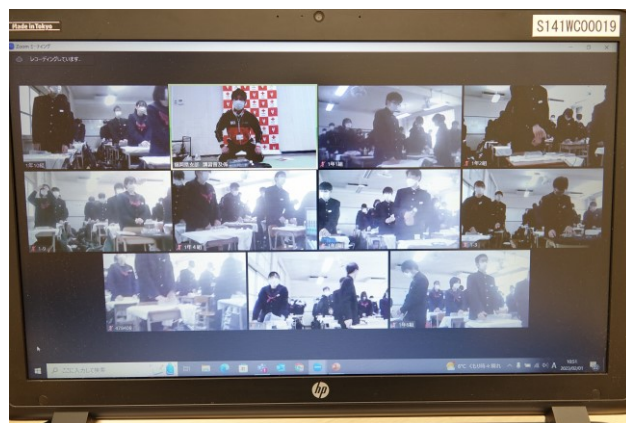
新型コロナウイルス感染症の影響により、対面や集合型の講習が実施できない場合に備え、当県支部では、令和3年10月からICTを活用したオンライン講習を実施しています。

オンライン講習の内容は、成人や乳幼児の心肺蘇生とAEDの使い方、高齢者支援となる認知症講座、防災に関する災害への備え等があり、特に心肺蘇生では身近にあるペットボトルを胸骨と心臓に見立て圧迫を実施するため、自宅で誰でも胸骨圧迫の練習ができます。

講習実績（再掲）

内 容	令和4年度	
	回数	人数
救急法：心肺蘇生とAEDの使い方（成人）	2	491
幼児安全法：心肺蘇生とAEDの使い方（乳幼児）	1	35
健康生活支援講習：地域で支える認知症	0	0
防災セミナー：災害への備え	0	0





高校生を対象としたオンライン講習（一次救命処置）

3. 健康生活支援講習指導員養成講習の開催

新型コロナウイルス感染症まん延下の中、感染対策を十分に講じたうえで、健康生活支援講習指導員の資格習得を目指す赤十字職員を対象に「健康生活支援講習指導員養成講習」を開催しました。

受講した職員は、高齢者に起こりやすい病気やけがとその手当、日常生活における介護技術、認知症の内容とその対応などの知識や技術を、“人に教える立場”として、どのように伝えるのかを学び、考え、実践しながら、5日間の指導員養成講習を終えました。

健康安全と赤十字の普及を共に行っていく新たな赤十字健康生活支援講習指導員が5名誕生しました。



ホットタオルを使った熱布浴



ベッドメイキング実習指導



衣類の着脱指導



健康生活支援講習新任指導員（5名）

3 青少年赤十字

青少年赤十字は、将来を担う青少年に「命の大切さと人間の尊厳」を伝えるために「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の世界共通の実践目標と、「気づき、考え、実行する」という態度目標のもと、各加盟校（園）の先生が指導者となり、学校教育の現場において様々な活動を展開しています。

青少年赤十字創設 100 周年を迎えた令和 4 年度は、各種記念事業を行いました。また、一層の活動の活性化や加盟促進に努めました。

1. 青少年赤十字創設 100 周年記念大会「第 17 回青少年赤十字福岡県大会」

青少年赤十字創設 100 周年を記念する県大会を令和 4 年 11 月 19 日（土）に開催し、以下（1）～（5）を行いました。



ステージに万国旗を配置した開会式



来賓の挨拶を聞く参加メンバー

（1）活動継続校と青少年赤十字指導者の表彰

継続して青少年赤十字活動に取り組んだ功績に対して、加盟校（園）92 校（園）と指導者 18 名を表彰し、代表校（者）に有功章及び感謝状を贈呈しました。

（2）赤十字標語コンテストの表彰

優しさや思いやりのこころを表現した標語を加盟校に募集し、全体で 109 作品の応募がありました。そのうち、特に優れた 3 作品を本県賛助奉仕団が選出し、本大会で作者のメンバーを表彰しました。

大会後は、3 つの標語を県支部社屋の懸垂幕及び救護倉庫の電光掲示板に表示し、多くの方の目に触れていただいています。

最優秀賞 ○ 思いやり きっとできるよ あなたなら （うきは市立山春小学校）

優 秀 賞 ○ 一歩ずつ みんなを笑顔に せきじゅうじ（うきは市立山春小学校）

○ 「お困りですか？」と言った勇氣に感謝状（福岡工業大学附属城東高等学校）



本県支部社屋に掲示した標語の懸垂幕

(3) 記念品の贈呈

加盟校（園）を対象とした支部主催行事に、積極的な参加があった10校（園）に対して、記念品としてワンタッチテントを贈呈しました。

(4) 活動紹介

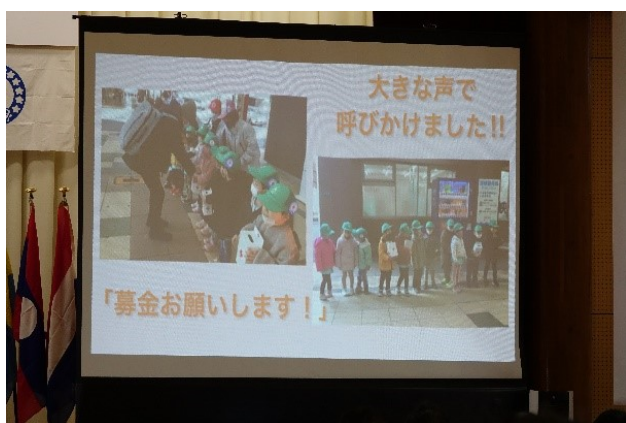
加盟校（園）の中から特色ある活動を行っている6つの学校・園の活動を、予め作成した動画で紹介しました。一部の学校は、当日参加したメンバー自ら発表して報告しました。

(5) 記念講演

天気や気象に関する正しい知識を身につけることが防災の第1歩となることを改めて本大会参加者と共に学ぶため、テレビやラジオで活躍する気象予報士を講師に迎え、記念講演を行いました。

○講 師 気象予報士 佐藤栄作氏

○テーマ 「気象変動と防災のツボ！」



各校の活動紹介



気象予報士 佐藤栄作氏の講話

2. 青少年赤十字活動の活性化

(1) 青少年赤十字の活動支援

子供たちの自ら学び、自ら考える力の育成に役立つ出前授業を行い、加盟校の活動を支援しました。

ア. 学校等からの依頼により職員派遣した講習や行事

支部見学等の受入、「総合的な学習の時間」や加盟校の学内安全講習等において、「救急法」「水上安全法」をはじめとした出前授業の講師派遣を行いました。

内 容	対 象 者	回数(対象者数)	備 考
加盟登録式・更新式	保・幼・小・中・高等学校 メンバー、指導者	45回 (17,372名)	メンバーとしての自覚を新たにする ため毎年学校毎に実施。
救急法、水上安全法(着衣泳) 幼児安全法	保・幼・小・中・高等学校 メンバー、指導者、保護者	131回 (5,935名)	救急法短期講習、水上安全法など、 加盟校および未加盟校を含んだ回数 及び対象者数を掲載。
青少年赤十字サポート・プログラム 防災学習や災害時に役立つ体験 非常食体験や福祉教育など	小・中・高等学校 メンバー、指導者、保護者	30回 (2,900名)	赤十字職員をゲストティーチャーと して派遣



保育園での加盟登録更新式



中学校での救急法講習

イ. 青少年赤十字研究推進校指定

令和5～7年度 大野城市立月の浦小学校 (発表予定年度 令和7年度)

研究主題 「主体的に考えをつくる算数科学習」 ～効果的な振り返り活動を通して～

ウ. 青少年赤十字活動実践校

県内の青少年赤十字加盟校(園)の中から、特色ある活動を実践している学校(園)に活動助成金(奨励金)を交付し、同校(園)の取り組みを支援すると共に、他校(園)への情報提供及び県内の青少年赤十字活動の振興拡充を図っています。

令和4年度の実践校（2校）

学校名	主題名・副題名
筑紫野市立天拝小学校	地域や学校の一員として、他社のために自分ができることを考え、 できることから実行しよう
福岡工業大学附属城東高等学校	For all the students 「これからの時代を生き抜く」生徒の育成

（２）防災教育の推進

青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」を加盟校へ配布し、防災教育の推進および同プログラムの活用度向上に努めました。

学校等における防災教室実施状況

学校名	対象人数	学校名	対象人数
新宮町立相島小学校	8	大刀洗町立大堰小学校	78
嘉麻市立上山田小学校	37	福岡市立小田部小学校	138
うきは市立山春小学校	32	古賀市立古賀西小学校	78
中間市立中間東小学校	84	北九州市立門司中央小学校	34
福岡市立玄界小・中学校	17	福岡市立日佐小学校	79
志免町立志免西小学校	189	粕屋町立仲原小学校	936
福岡市立小笹小学校	149	糸島市立南風小学校	91
福岡市立東光小学校	45	福岡市立柏原小学校	110
		合計	16校 2,105

（３）青少年赤十字メンバーの育成

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リーダーシップ・トレーニング・センター等の宿泊を伴う研修は日帰りに短縮し、日程や研修先を変更するなどして、一部実施しました。

ア．本社主催

行事名	実施日	対象	内容	場所または開催形態	参加者数
青少年赤十字国際交流事業	10月2日、 11月5、6日	高校生	気候変動に関するワークショップ、各国メンバー間交流、活動紹介等	オンライン	当県支部メンバー 8 (全国)119名/26都道府県 (除日本)228名/33赤十字・赤新月社
スタディプログラム	3月21、25日	高校生	リーダー養成プログラム。 社会的包摂に関する体験学習等	オンライン	当県支部メンバー 2 (全国)73名/47都道府県

イ. 支部主催

行事の名称	実施日	対象	内容	場所または開催形態	参加者数
第1回高校連絡協議会	6月12日	高校生	学校紹介、赤十字に関する学習会、救急法等	当県支部	メンバー 33 指導者 5
第2回高校連絡協議会	8月1日	高校生	役員改選、災害時健康生活支援講習、100周年記念ダンス等	福岡赤十字病院 椎木記念ホール	メンバー 27 指導者 7
リーダーシップ・トレーニング・センター	8月8日	小学生 中学生 高校生	赤十字に関する学習、ワークショップ、救急法等	当県支部 北九州市立萩ヶ丘小学校	メンバー 69 指導者 20
青少年赤十字創立100周年記念「第17回青少年赤十字福岡県大会」	11月19日	園児 小学生 中学生 高校生 指導者 奉仕団関係者等	表彰式、活動紹介動画上映、記念講演等	福岡市立大楠小学校	メンバー73 来賓10 指導者34 保護者1 賛助奉仕団6 学生奉仕団7 青年奉仕団2
第3回高校連絡協議会・全国学生献血クリスマスキャンペーン2022	12月18日	高校生	献血に関する学習会、クリスマスカード作成、献血キャンペーンへの参加等	当県支部 福岡市西側ふれあい広場	メンバー 52 指導者 5
第4回高校連絡協議会	3月5日	高校生	青年奉仕団の活動紹介、卒業生を送る会等	当県支部	メンバー 23 指導者 5

(4) 青少年赤十字加盟校から寄せられた義援金・救援金

青少年赤十字の実践目標である「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の一環として、多くの加盟校で、相次ぐ自然災害のための義援金・救援金の募金活動に取り組み、たくさんの心温まる寄付をいただきました。令和4年度の青少年赤十字加盟校からの寄託金合計額は、739,477円となりました。

No.	義援金・救援金等名称	学校名	
1	青少年赤十字海外支援事業資金	宗像市立地島小学校	
2	令和2年7月豪雨災害義援金	久留米市立川会小学校	
3	2022年パキスタン洪水救援金	福智町立弁城小学校	
4	ウクライナ人道危機救援金	宇美町立宇美東小学校	志免町立志免西小学校
		福岡県立柏陵高等学校	福岡県立修猷館高等学校
		朝倉市立三奈木小学校	筑紫野市立天拝小学校
		粕屋町立粕屋中央小学校	
5	2023年トルコ・シリア地震救援金	朝倉市立蜷城小学校	飯塚市立八木山小学校
		福岡舞鶴高等学校	福岡舞鶴誠和中学校
		嘉麻市立熊ヶ畑小学校	粕屋町立粕屋西小学校
		大和青藍高等学校	
6	赤十字活動資金	福岡県立門司大翔館高等学校	
	合計	739,477円	

(5) 青少年赤十字指導者の養成講習会等の開催

各加盟校（園）においては、教師が指導者となって、児童・生徒とともに活動に取り組みます。そのため、活動への理解がより深まるように指導者を対象とした各種の講習会を開催しています。令和4年度は、九州ブロック各県支部からの参加者を招いて指導者養成講習会をオンラインにて開催しました。また、3年ぶりに県青少年赤十字研究会を集合形式で開催しました。

県・本社主催

実施日	講習会等の名称	開催方式	参加者数
8月20日	九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会 (県の養成講習会を兼ねる)	オンライン	8 (内、当県支部2)
2月20日	福岡県青少年赤十字研究会	集合	26

3. 青少年赤十字の普及

(1) 積極的な加盟促進

加盟促進については、新規加盟勧奨活動を継続的に行った結果、令和4年度は幼稚園・幼児園3園、小学校21校・中学校7校、合わせて31校・園が新たに加盟し、県内の加盟校は398校となりました。

令和5年3月31日現在

教育行政区分 ※但、私学を含む	保育・幼稚園		認定こども園		特別支援学校		小学校		中学校 (義務教育学校 含)		義務教育学校		高等学校		通信制		各種学校		合計	
	園数 (園)	メンバー数 (人)	学校数 (校)	メンバー数 (人)	学校数 (校)	メンバー数 (人)	学校数 (校)	メンバー数 (人)	学校数 (校)	メンバー数 (人)	学校数 (校)	メンバー数 (人)	学校数 (校)	メンバー数 (人)	学校数 (校)	メンバー数 (人)	学校数 (校)	メンバー数 (人)	学校数 (校)	メンバー数 (人)
福岡市 教育委員会	4	307	1	201	5	527	69	40,941	6	2,291	0	0	19	8,396	1	10	1	326	106	52,999
北九州市 教育委員会	10	527	0	0	0	0	36	11,682	11	4,307	0	0	4	892	0	0	0	0	61	17,408
福岡 教育事務所	3	280	1	67	0	0	55	30,969	15	6,941	0	0	6	3,252	0	0	0	0	80	41,509
北九州 教育事務所	7	729	0	0	0	0	21	5,919	5	1,785	0	0	3	963	0	0	0	0	36	9,396
北筑後 教育事務所	0	0	0	0	0	0	24	6,860	2	938	0	0	0	0	0	0	0	0	26	7,798
南筑後 教育事務所	0	0	0	0	0	0	39	8,075	3	869	2	186	1	15	0	0	0	0	45	9,145
筑豊 教育事務所	1	324	0	0	0	0	25	5,993	7	2,251	0	0	3	1,780	0	0	0	0	36	10,348
京築 教育事務所	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1,432	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1,432
合計	25	2,167	2	268	5	527	269	110,439	57	20,814	2	186	36	15,298	1	10	1	326	398	150,035

※閉校による登録抹消 2校(園)

※加盟の形態は、全校加盟・学年加盟・学級加盟・クラブ加盟があります。

令和4年度新規加盟登録校

空港前保育園	飯塚市立内野小学校	添田町立落合小学校	飯塚市立穂波西中学校
NINARUふじまつ保育園	飯塚市立大分小学校	川崎町立池尻小学校	飯塚市立幸袋中学校
赤間保育園	飯塚市立若菜小学校	川崎町立川崎東小学校	飯塚市立穂波東中学校
福岡市立板付北小学校	飯塚市立飯塚鎮西小学校	福智町立弁城小学校	
福岡市立東光小学校	飯塚市立穂波東小学校	福智町立上野小学校	
福岡市立下山門小学校	飯塚市立飯塚東小学校	赤村立赤小学校	
古賀市立古賀西小学校	飯塚市立頼田小学校	飯塚市立飯塚第一中学校	
久留米市立柴刈小学校	飯塚市立幸袋小学校	飯塚市立飯塚第二中学校	
飯塚市立庄内小学校	添田町立真木小学校	飯塚市立頼田中学校	(以上 31校・園)

4 国際活動

赤十字の国際活動は、赤十字国際委員会及び国際赤十字・赤新月社連盟の連携のもと、192 の国と地域に広がる赤十字のネットワークにより「緊急救援」「復興支援」「開発協力」等を行っています。

令和4年度において、日本赤十字社では各国赤十字社と国際赤十字・赤新月社連盟が実施するトルコ・シリアでの救援・復興活動を支援するために「2023年トルコ・シリア地震救援金」の募集を開始しました。当県支部においてもJR博多駅前街頭募金を実施する等、積極的な周知と募集活動を行いました。令和3年度から開始した「ウクライナ人道危機救援金」の募集なども継続しています。

また、国際赤十字・赤新月社連盟からの依頼により、パレスチナ赤新月社医療支援事業及びバングラデシュ南部避難民保健医療支援事業の活動のため、福岡赤十字病院から看護師2名を派遣しました。

1. 国際活動の参加

(1) 国際救援金受付

日本赤十字社では、国外において突発的に発生した大規模な自然災害や武力紛争等の人道危機などに支援する救援金を募集しました。

特に、令和5年2月6日（月）トルコ南東部のシリアとの国境付近を震源とするマグニチュード7.8の地震とその余震により、多数の死傷者と避難民の発生が報告されたことから、日本赤十字社では「2023年トルコ・シリア地震救援金」の募集を開始しました。当県支部においても被害の大きさを鑑み、JR博多駅で街頭募金を実施するなど積極的な募集を行いました。



崩壊したビルの現場で救護活動にあたる
シリア赤新月社のスタッフ（C）SARC



救援物資を運ぶシリア赤新月社職員（C）SARC



街頭募金を実施する日本赤十字九州国際看護大学の学生及び当県支部職員（JR 博多駅前）

令和4年4月1日～令和5年3月31日

救援金名	金 額（円）
2023 年トルコ・シリア地震救援金	35,623,960
ウクライナ人道危機救援金	51,722,527
2022 年アフガニスタン地震救援金	12,371
アフガニスタン人道危機救援金	123,926
2022 年パキスタン洪水救援金	56,038
中東人道危機救援金	91,461
バングラデシュ南部避難民救援金	111,945
無指定海外救援金	7,841,655
青少年赤十字教育支援事業救援金	5,000
「NHK海外たすけあい」寄付金	19,664,568

（２）国際救援・開発協力要員派遣事業

本社と連携のもと、国際赤十字が行う救援・開発プロジェクトに対して、国際救援・開発協力要員を派遣しました。

ア. パレスチナ赤新月社医療支援事業

平成 30 年 4 月より、パレスチナ赤新月社と協力し、レバノンにおいて同社が運営する医療施設への支援活動を展開しており、日本赤十字社は、現地のスタッフ看護師として、看護実践のための環境整備及び看護の知識・技術の向上を目的とした看護教育を行いました。

派遣先：レバノン共和国

派遣者：福岡赤十字病院 看護師 前澤 裕未

派遣期間：令和 4 年 4 月 4 日（月）～令和 4 年 9 月 30 日（金）



イ. バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業

バングラデシュ赤新月社、国際赤十字・赤新月社連盟、その他支援赤十字社と連携し、避難民ボランティアが保健衛生普及の担い手となるように地域保健活動の実施や、健康情報及び疾患予防に関する知識の向上のための普及活動を行いました。

派遣先：バングラデシュ人民共和国

派遣者：福岡赤十字病院 看護師長 橋本 香織

派遣期間：令和 4 年 10 月 15 日（土）～令和 5 年 4 月 13 日（木）



5 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成されたボランティア組織です。地域に根差した活動を行う「地域奉仕団」、専門知識や技術を活かした「特殊奉仕団」、そして若い力と行動力で社会に貢献する「青年奉仕団」の3つがあります。

新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底して、オンラインも併用しながら様々な形で活動を実施しました。

1. 奉仕団の活動状況

(1) 地域赤十字奉仕団

ア. 地域赤十字奉仕団員数（令和4年度）

市町村数	奉仕団数 (団)	団 員 数 (人)		
		男	女	計
60	31	1,125	5,327	6,452

イ. 活動状況

(ア) 防災に関する活動：12 団

地域で開催される防災訓練に参加するなど、災害時に備えた活動をしました。

(イ) 地域福祉に関する活動：10 団

新型コロナウイルス感染防止対策を実施し、清掃活動のほか、独居老人宅を訪問などの活動を実施しました。

(ウ) 青少年赤十字の普及、育成に関する活動：8 団

青少年赤十字は、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教育の場で展開されており、奉仕団においても、青少年の健全育成を目的とした学校行事（青少年赤十字加盟登録式・入学式・卒業式等）への参加、普及活動、登校時の挨拶運動や防犯活動を推進しています。

(エ) 救急法、健康生活支援講習等講習普及に関する活動：8 団

事故を防止し、緊急時に必要な手当ができるように、正しい知識と技術を習得する救急法講習会や健康管理、地域での高齢者支援等を学ぶ健康生活支援講習を開催し、団員自身が研修会等で受講するとともに、地域住民への普及に努めました。

(オ) 献血推進に関する活動：8 団

地域や街頭で実施する献血活動に際し、献血への協力呼びかけ等を行いました。

(カ) 海外救援金への募金：3 団

令和4年から募集している「ウクライナ人道危機救援金」への募金活動を行いました。

(キ) 赤十字会員増強に関する活動：12 団

地域に根差した活動の一環として、活動資金の募集にもご協力いただきました。

区 分	奉仕団による実績 (A)	地区分区が募集する 活動資金実績 (B)	奉仕団の 募集実績比率 (A/B)
令和 3 年度	16,625,686 円	354,271,574 円	4.9%
令和 4 年度	15,276,024 円	335,163,952 円	4.6%

ウ. 地域赤十字奉仕団委員長会議の開催

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年度から開催していなかった本会議を 3 年ぶりに開催しました。県内地域奉仕団が一堂に会し、奉仕団活動の報告や活動時の工夫など意見交換することにより、次年度の活動充実に向けた準備を進めました。



3 年ぶりに一堂に会して開催

(2) 青年奉仕団

ア. 福岡県青年赤十字奉仕団

平成 31 年 3 月、福岡県青少年赤十字高校連絡協議会卒業生メンバーを中心に再結成された奉仕団です。令和 4 年度は、主に、福岡県青少年赤十字高校連絡協議会での活動サポートを実施しました。

また、青少年赤十字は、高校生までを対象とする活動であるため、高校卒業と同時に活動も卒業となることから、卒業しても、引き続き世のため人のために活動する意思のあるメンバーを新規団員として迎えるため、青年赤十字奉仕団と交流会を実施しました。参加した 6 名の高校生メンバー全員が、同団に加入することとなりました。

イ. 日本赤十字九州国際看護大学学生奉仕団

日本赤十字九州国際看護大学学生奉仕団は、同大学のボランティアサークルで構成されています。令和 4 年度は、県内 4 か所の登山道に設置されている救急箱用の衛生用品を購入し、福岡県青年赤十字奉仕団による救急箱のメンテナンス活動の手伝い等を行いました。

(3) 特殊奉仕団

ア. 日本赤十字社福岡県支部防災ボランティア会

防災ボランティア会は、個人単位で活動に参加していたボランティアを組織化し、設立された防災ボランティア団体です。令和 4 年度は、地域住民に向けた防災セミナーの実施や県防災訓練でのボランティアセンター運営訓練に協力するなど防災意識の向上や知識の普及を行いました。

イ. 福岡赤十字病院奉仕団

長年にわたり、外来患者の受付案内や図書の貸し出し、入院患者の院内移動の案内などきめ細かな各種奉仕活動を行っていましたが、新型コロナウイルス感染拡大のため病院内での活動は休止となり

ました。令和4年度も令和2・3年度に引き続き、日本赤十字社福岡県支部において広報誌発送のボランティア活動を行いました。

ウ. 赤十字看護（介護）奉仕団 10 団

赤十字家庭看護法（現・健康生活支援講習）の講習修了者をもって組織された赤十字看護（介護）奉仕団です。各地域の福祉施設での活動においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止中ですが、独居老人訪問等については、感染予防対策をとったうえで実施しています。

エ. 福岡県いやしのケア赤十字奉仕団「なごみ」

県内の社会福祉施設及び病院等を活動の場として、入所者や患者に対し、心身のストレスの緩和、精神的なケアを目的とした奉仕活動を実施していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設での活動に制限があり休止中です。

オ. 安全奉仕団

赤十字救急法や水上安全法指導員の資格を有するボランティアで組織され、人々の安全と健康を守るための救急法や水上安全法などの講習を行い、普及活動に努めています。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、基本的な感染対策のもと接触を伴う実技を制限して、講習普及活動を行いました。特に着衣泳の講習は3年ぶりに小学校で開催したほか、福岡市内の小・中学校の教員が着衣泳の指導ができるよう、教員への講習普及も実施しました。

カ. 福岡県青少年赤十字賛助奉仕団

青少年赤十字活動の普及発展及び加盟促進を目的として、青少年赤十字指導者協議会のOBで結成された奉仕団です。令和4年度は、感染拡大に留意しつつ、青少年赤十字創設100周年記念事業への協力、加盟校への情報誌発送作業の支援を行いました。

キ. 福岡県柔道整復師会赤十字奉仕団

打撲、捻挫、挫傷（筋、腱の損傷）、骨折、脱臼などの施術を行う柔道整復師の免許を有する方々によって、災害救護や保健衛生等に関する奉仕活動を目的に結成された奉仕団です。令和2年度から団員が運営する施術所に募金箱等を設置し、集められた募金を活動資金として寄付し、当県支部の支援活動を行っています。

ク. 特別養護老人ホーム大寿園赤十字奉仕団「むくの木」

大寿園で活動を行っていた個々のボランティア同士が結束することによって更なる活動の充実を目指すことを目的として結成されました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設での活動に制限があり休止中です。

ケ. 福岡県赤十字無線奉仕団

無線奉仕団は、アマチュア無線の愛好家で組織された奉仕団で、アマチュア無線の技術と経験を活かして活動を行っています。令和4年度は、本県支部と全国の支部が災害時に円滑に無線通信ができるよう通信訓練を行いました。また、本県防災ボランティア会の団員を対象とした無線機器の取り扱い訓練を行いました。

コ. 福岡赤十字病院音楽奉仕団

福岡赤十字病院の患者さんやそのご家族の方々等に、病院で少しでも気持ちよく過ごしていただくため、音楽の楽しさをお届けするコンサートの企画・運営を行うために結成された奉仕団です。令和4年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、病院での活動を休止しました。

(4) ボランティア活動充実のための取組

ア. ボランティア DAY2022 における活動：11 団

例年、5月8日の世界赤十字デーを中心に清掃活動等地域のニーズにあった活動を実施しています。新型コロナウイルス感染の感染防止を徹底したうえで、地域のニーズにあわせた活動を実施しました。

イ. 地域赤十字奉仕団員研修会

奉仕団員の赤十字活動への理解を深化させるとともに知識・技術の向上のため、県内4地区で開催を計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としました。

ウ. 特殊赤十字奉仕団員研修会

赤十字奉仕団としての活動活性化及び赤十字への理解をより深化させ、奉仕団間の連携強化を図るため、全特殊赤十字奉仕団を対象とした研修会を計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としました。

エ. 本社・ブロック主催研修

地域に根ざした存在である赤十字ボランティアが主体的に赤十字事業に参画し、世代や分野を超えて連携し、活動を実施していくための研修会に参加しました。

実施日	行事名	場 所	当県支部参加者数
1月18日 ～19日	九州ブロック赤十字奉仕団委員長及び 事業担当課長会議	日本赤十字社 鹿児島県支部	奉仕団 1名 職 員 1名

2. 大韓赤十字社釜山広域市支社奉仕会員との交歓研修会

昭和50年8月大韓赤十字社釜山広域市支社と本県支部は姉妹協定を締結し、親善友好を深めているところであります。令和4年度についても、5月に4日間、福岡県の奉仕団員等7名が訪韓、交歓研修会を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期となりました。

特殊赤十字奉仕団/青年赤十字奉仕団結成状況

区 分	奉 仕 団 名	結成年月日	委員長名	団員数（人）
防 災 ボ ラ ン テ ィ ア	日本赤十字社福岡県支部 防災ボランティア会	H25. 7. 27	平 山 光 典	23
病 院 奉 仕 団	福岡赤十字病院奉仕団	S59. 10. 9	宮 地 英 子	29
看 護（介 護）奉 仕 団	篠栗町赤十字老人看護奉仕団 「ふれあい会」	S62. 2. 27	廣 瀬 厚 子	45
	浮羽町赤十字老人看護奉仕団 「あいの会」	H 3. 9. 12	渕 上 正 子	52
	直方市赤十字老人看護奉仕団 「胞子の会」	H 4. 8. 18	古 賀 章 子	24
	北九州赤十字看護奉仕団 「じゅんの会」	H 9. 7. 9	国 島 ふさ子	12
	福岡赤十字訪問看護ステーション介 護奉仕団「ひまわりの会」	H 9. 7. 16	吹 野 正 義	3
	志免町赤十字介護奉仕団 「ふきのとう」	H10. 4. 15	財 部 美佐子	17
	川崎町赤十字介護奉仕団 「ぎんなんの会」	H12. 10. 16	松 岡 久 代	25
	今津赤十字病院介護奉仕団 「しおさい」	H14. 3. 23	山 本 育 子	7
	久留米赤十字介護奉仕団 「みやびな会」	H15. 4. 16	松 嶋 恵美子	3
	嘉麻赤十字介護奉仕団 「サルビアの会」	H15. 4. 19	松 岡 良 子	5
い や し の ケ ア 奉 仕 団	福岡県いやしのケア 赤十字奉仕団「なごみ」	H10. 6. 15	庄 野 まり子	54
安 全 奉 仕 団	救急法普及委員会	S45. 4. 1	佐 藤 茂 夫	54
	水上安全法普及委員会	S45. 4. 1	中 村 成 也	57
賛 助 奉 仕 団	福岡県青少年赤十字賛助奉仕団	H19. 6. 1	三 亀 幹 治	39
柔 道 整 復 師 会 奉 仕 団	福岡県柔道整復師会赤十字奉仕団	H21. 4. 1	松 岡 保	625
赤 十 字 奉 仕 団	大寿園赤十字奉仕団「むくの木」	H26. 3. 10	庄 野 まり子	12
無 線 奉 仕 団	福岡県無線赤十字奉仕団	H26. 4. 11	橋 爪 兼 続	20
芸 能 奉 仕 団	福岡赤十字病院音楽奉仕団	H31. 3. 29	寺 坂 禮 治	12
青 年 奉 仕 団	日本赤十字九州国際看護大学学生奉 仕団	H14. 5. 27	赤 木 麻 央	30
	福岡県青年赤十字奉仕団	H31. 3. 29	田 代 孟	23
計		22 団体		1, 171

※ 宇美町赤十字老人看護奉仕団「くすの木会」は令和4年9月に解散しました。

6 活動資金の募集

当県支部が実施している様々な赤十字活動は、毎年、県民の皆様から寄せられる活動資金(寄付金等)によって行っています。

活動資金の募集の担い手は、地区・分区を通じた地域の募集奉仕者の方々による直接戸別訪問や町内会、自治会などを通じて地域にお住まいの多くの方々の善意のご協力によるものです。

令和4年度は、前年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響により、自治会等による活動資金募集を取り巻く環境は、厳しい状況にありましたが、会員の皆様から多くのご協力をいただくことができました。

また、会員の増強と赤十字思想の普及を図り、今後一層社業の進展を期すための「全国赤十字大会」が、3年ぶりにコロナ対策を講じた上で開催されました。その他、九州八県赤十字大会(宮崎県)、福岡県日赤紺綬会第62回総会を開催しました。

1. 個人会員と活動資金の募集

例年、地区・分區管内の赤十字奉仕者(協賛委員など)、自治会・町内会においてお世話をいただいている皆さまのご協力を得て、県民の皆様には会員制度の周知を図るとともに、赤十字活動に関する理解促進をお願いしておりますが、令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響により活動自粛を余儀なくされた地区・分區があった一方、遺贈・相続財産等の高額寄付者による活動資金の協力が増加しました。

また、福岡県日赤紺綬会第62回総会を開催し、紺綬会会員のご協力を得て、多くの高額協力者による新規会員の勧誘とご加入、既会員の再協力等によるご協力をいただきました。今年度は地区・分區を通じた協力が減少傾向にある中、高額寄付の協力をいただいたことにより、赤十字活動資金の募集実績は目標額を上回るご協力をいただきました。

2. 法人会員と活動資金の募集

毎年、法人会員にダイレクトメールによる活動資金のご協力を依頼しています。これに併せて支部内に特別勧奨班を組織し、主に未協力の法人会員を訪問し、活動資金の協力を直接依頼する「法人勧奨」に取り組んでいます。

新規法人会員の開拓については、本社から当県支部に移管された法人、県内法人(未加入会員)などを対象に法人会員の加入勧奨を図るため、ダイレクトメールによる依頼を行いました。

また、福岡県日赤紺綬会と地区・分區の連携を図り、多くの法人に活動資金のご協力をいただきました。

その他、企業・団体の社会貢献事業(CSR活動)の一環として組み込んでいただけるよう、チャリティボックス(募金箱)や支援型自動販売機の設置、赤十字支援マークを活用した赤十字への支援活動(寄付付商品)など、様々なメニューをご提案しております。ダイレクトメールでのお知らせや法人勧奨で訪問した際にご説明するなど、赤十字支援の裾野を広げる周知・広報活動に取り組みました。

3. 活動資金募集実績

(1) 活動資金募集実績（一般・法人）

目標額(円)			実績額(円)	件数	達成率(%)	計	達成率(%)
500,000,000	一般	425,000,000	443,814,150	5,306	104.4	506,222,849	101.2
	法人	75,000,000	62,408,699	1,101	83.2		

(2) 活動資金募集実績（地区・支部）

目標額(円)			実績額(円)	達成率(%)	計	達成率(%)
500,000,000	地区	440,000,000	374,367,561	85.1	506,222,849	101.2
	支部	60,000,000	131,855,288	219.8		

(3) 高額活動資金実績（1件50万円以上）

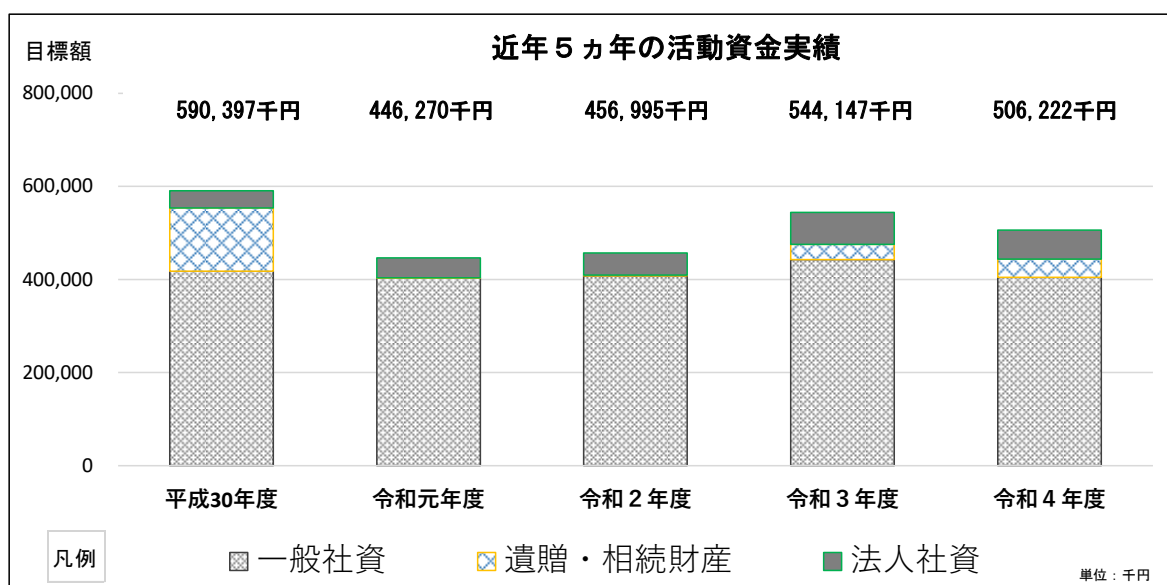
実績額(円)	内訳(円)		件数	合計件数
136,930,080	一般	97,203,609	55	86
	法人	39,726,471	31	

※一般社資実績額に遺贈1件（20,203,609円）、相続財産寄付5件（19,000,000円）を含む。

(4) 遺贈・相続財産寄付実績

遺贈		相続財産寄付		計	件数
件数	実績額(円)	件数	実績額(円)	39,203,609	6
1	20,203,609	5	19,000,000		

(5) 赤十字活動資金実績の推移（5年間）



（６）赤十字会員数（一般・法人）

令和５年３月３１日現在

会員数（計）	一般会員	法人会員
4,223	3,718	505

４．募金箱、寄付金付き商品及び寄付金付自動販売機による活動資金募集実績

令和４年度における企業・団体等の社会貢献事業（CSR活動）の取り組みとして、当県支部は寄付金付自動販売機設置の推進を図るとともに、寄付金付き商品による赤十字活動資金への協力を促進しました。今後とも企業団体等が検討するCSR活動の一環として、赤十字活動への理解と協力が得られるよう、連携を強化していきます。

（１）チャリティ募金箱による活動資金募集実績

団体名	募金箱設置数	実績額(円)	摘要
公益社団法人 福岡県柔道整復師会	58 箇所	164,334	
福岡県内農業協同組合	9 箇所	93,249	9 単協内に募金箱設置
有限会社 直方メディカルサービス	13 箇所	55,710	
福岡国際空港 株式会社	1 箇所	19,890	国際線ターミナル内免税店
そ の 他		266,718	
計		599,901	

（２）寄付付き商品による活動資金募集実績

団体名	期間	実績額(円)	摘要
福岡ソフトバンクホークス株式会社	4月12日～1月11日	851,297	ファイト！九州タカポイント募金
株式会社福岡銀行（※）	令和３年７月１日～令和４年３月３１日	575,174	FPG SDGs 外貨定期預金の為替手数料相当額の一部を寄付
株式会社西鉄ホテルズ	4月１日～３月３１日	371,665	寄付付き宿泊プランの利用者分を寄付
住友生命久留米支社	6月１日～９月３０日	26,280	寄付付きアンケート
リアークス	4月１日～３月３１日	7,680	歯みがきシート
計		1,832,096	

※ 株式会社福岡銀行は、令和３年度にキャンペーン期間を実施、令和４年度にご寄付いただきました。

（３）寄付付き自動販売機による活動資金募集実績

寄付金付き自動販売機設置台数 29 台、寄付額 1,505,687 円(令和５年３月３１日現在)

7 広 報

赤十字の使命や活動を一人でも多くの方々に理解していただくため、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、様々な広報活動を展開しました。

令和4年度は地元放送局とタイアップ事業のひとつとして、新たに青少年赤十字創設 100 周年を記念した「赤十字×KBC 防災出前授業」を実施しました。

1. 赤十字運動月間の取り組み

レッドライトアッププロジェクトの実施

令和4年度で7回目を迎える日本赤十字社の全社的プロジェクトで、各都道府県のシンボルとなる歴史的建造物やランドマークを赤くライトアップすることで、赤十字の創始者アンリー・デュナンや日本赤十字社の創設者佐野常民などの先人たちが歩んできた「人道」の歴史に思いをはせるとともに、理解を深めていただくことを目的としています。

本県支部では、令和3年度と同様に「福岡市赤煉瓦文化館」「小倉城」「三池炭鉱宮原坑」の県内3か所を実施しました。

日時：令和4年5月6日（金）～8日（日） 19時00分～22時00分

場所：福岡市赤煉瓦文化館（福岡市中央区天神1-15-30）

小倉城（北九州市小倉北区城内2-1）

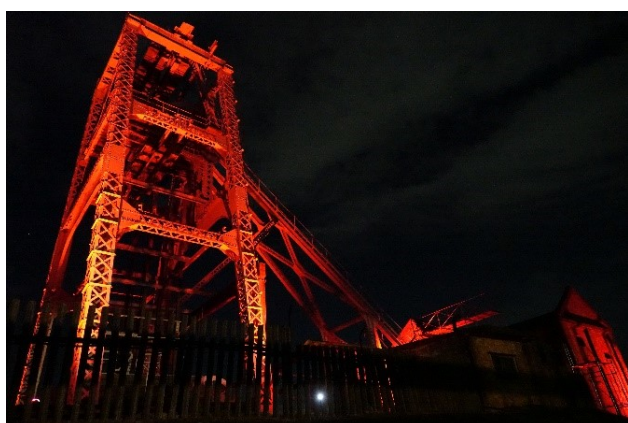
三池炭鉱宮原坑（大牟田市宮原町1-86-3）



福岡市赤煉瓦文化館



小倉城



三池炭鉱宮原坑

2. マスメディアとの連携

近年の活動資金の減少に歯止めをかけるため、地元放送局とタイアップし、災害時の救護活動や救急法等の講習などの赤十字活動を取り上げてもらうことで、防災・減災意識の向上を図るとともに、日本赤十字社の認知度向上に努めました。

また、令和4年度において青少年赤十字創設100周年を迎え、その記念プロジェクトとして地元放送局と連携した「赤十字×KBC 防災出前授業」を実施しました。

主な内容

- ア 青少年赤十字創設100周年プロジェクト「赤十字×KBC 防災出前授業」
- イ 講習普及事業の取材（テレビ収録・インターネット）
- ウ 災害の備えに関する特集（テレビ収録）
- エ 災害救護や青少年赤十字、ボランティア等についての紹介（ラジオ収録）
- オ 年間を通した福岡県支部の活動についての配信（インターネットニュース）
- カ イベント開催や献血等の告知（テレビ生出演 30秒PR）



赤十字×KBC 防災出前授業



講習普及事業の紹介（テレビ中継）



災害救護活動についての紹介（テレビ中継）



赤十字事業についての紹介（ラジオ収録）

3. 広報資材を活用した地域・企業と連携した取り組み

各市区町村や外部団体主催の市民参加型イベント内で、赤十字事業紹介パネルや救援物資などを展示することで、赤十字活動を理解していただけるよう PR を行いました。



企業ブースへの出展
(ドゲンジャーズ～秋の体育祭～)



赤十字コーナーの設置
(大野城市ふくしフェスティバル)

4. 広報資材の配布等

(1) 活動資金募集チラシなど

地区区分を通じて、広報資材を各家庭やボランティアの方々に次のとおり配布しました。

配布資材

・活動資金募集チラシ	612,797 部
・リーフレット	6,685 部
・赤十字会員募集のしおり	18,657 部
・ポスター（B2、B3、A3）	8,140 部

(2) 赤十字新聞

本社が毎月1日に発行する赤十字新聞を、県内の全地区区分および赤十字関係者へ毎月約3,500部配布しました。

(3) Twitter を活用した情報発信

当県支部の活動やイベント情報等をより多くの方々にリアルタイムでお届けできるよう、Twitterを活用した発信を行いました。

8 看護師等の養成

日本赤十字社が行う救護員としての看護師養成は、130 年以上の長い歴史と伝統を持つ重要な事業の一つであり、災害時に活躍できる看護師等を養成しています。全国には、12 の専門学校の他、学校法人 日本赤十字学園が開設する 6 つの看護大学があり、そのうちの 하나가日本赤十字九州国際看護大学（宗像市）です。

当大学では、学部、大学院研究科（修士課程・博士課程）併せて約 450 名が在籍し、これまで約 2,100 名を看護職者として輩出しています。現在は、感染対策として対面とオンラインを併用した講義・演習・実習を開講しており、シミュレーション教育、VR、模擬カルテ等を用いた体験型学習を導入し、ウィズコロナでの人材育成に努めています。

日本赤十字九州国際看護大学における赤十字看護師の養成

ア. 卒業生・修了生の進路状況

赤十字の基本理念である「人道」を基調としながら、災害救護活動、国際救援活動など社会に貢献するとともに、国や文化の枠を超えて人々の健康や福祉向上のための高度な看護技術と国際性を兼備えた人材を養成しています。

令和 4 年度、学部においては 118 人の卒業生を、大学院においては修了生 13 人を、社会に送り出しました。



看護学部 卒業生 進路状況

卒業生数		118
内 訳	赤十字施設就職者数	57 (48.3%)
	赤十字以外就職者数	54 (45.8%)
	進 学 者 数	5 (4.2%)
	そ の 他	2 (1.7%)

() 卒業生全体に占める対象者の割合

大学院 修了生 進路状況

修了生数		13
内 訳	医療機関就職者数	11 (84.6%)
	(うち赤十字施設)	(1 (7.7%))
	教育機関就職者数	2 (15.4%)
	そ の 他	0 (0%)

() 修了生全体に占める対象者の割合

イ. 赤十字特別推薦入試の実施

優秀な救護看護師を養成・確保するため、日本赤十字九州国際看護大学の入学試験にあたり、毎年1名を選考し、奨学金として年間60万円を貸与しています。

なお、本奨学金には返還免除となる要件があります。

学 年	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	計
支部長推薦者数	1	1	1	1	4

ウ. 看護大学生に対する奨学金の貸与

令和4年度に見直した本奨学金制度は、看護学部在籍しより進路が明確となる3年生の中から2名を限度に修学に必要な資金の一部を奨学金として年間60万円（1名あたり）を貸与しています。

なお、令和4年度からの新制度では卒業後直ちに看護師、保健師の資格を取得し、県内の赤十字医療施設等に一定期間以上就業した場合、返還免除となります。

学 年	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	計
旧制度奨学金貸与者数	0	0	2	1	3
新制度奨学金貸与者数	0	0	1	0	1

エ. 効果的な実習に向けた取組み

文科省補助事業「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」により整備した高性能シミュレーター（模擬患者）とMRゴーグル等を技術演習に導入し、実践力の向上を図りました。模擬患者の変化するリアルな症状を再現することで、学生のアセスメント力を強化することができ、教育の質の向上に繋がっています。MRゴーグル等の活用は、さらに専門家と協働しつつ観察力や臨床判断力の向上につなげるための授業計画を構築しています。

さらに、デジタル教科書の導入に伴い、より快適な学習環境を整えるため、学内アクセスポイントの増設及び基幹ネットワークの増強・拡充を図りました。また、授業を簡単に収録し公開できる動画収録システムを各教室に導入し、学生が「もっと学びたい」、「学びなおしたい」時にいつでも学習できる環境を整えました。



高性能シミュレーターを使って学内実習を行う様子

オ. 社会連携・社会貢献活動

社会連携・社会貢献活動として、「防災・減災」をテーマに、地域住民を対象にした公開講座の開催と、自治体等が主催する災害訓練に参加しました。

4回開催した公開講座は、「防災・減災」を軸に、「災害への備え」、「高齢者の特性への理解」、「認知症高齢者の介護」、「互近助の力」、と毎回トピックを変えて実施したことで、複数の講座に参加する方も多く、参加者からは高い評価を得ました。学生も運営サポートとして参加し、市民への説明を行うことで、自らの学びにも繋がりました。

また、宗像市が主催する総合防災訓練、災害のボランティアセンター設置訓練などに、多くの学生および教職員が参加しました。訓練では、傷病者役としてトリアージされる、また実際に搬送されることを経験することで、負傷し救助を待つ負傷者の気持ちを学ぶとともに、行政の取り組みを知り、自分たちの防災に対する意識を再確認する機会になりました。

9 医療事業

赤十字病院は、「博愛・奉仕・平等」の理念のもと、地域に根差した中核病院として、質の高い医療を提供しています。全国で91の医療施設を運営し、グループのスケールメリットを生かした経営資源の有効活用など、県内の各赤十字医療施設においてもさらなる経営効率化に努め、地域住民のニーズや期待にお応えできるよう安定した経営基盤の確立を目指しています。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、陽性患者専用病床の確保や発熱外来の設置、新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種等を行いました。

1. 病院の事業概要

(1) 福岡赤十字病院

福岡市内及び近郊における基幹病院として、救急医療や高齢者医療及び予防医療を積極的に行うとともに、赤十字の使命である救援・救護活動においても、福岡県支部との連携を密にし、災害時に備えた体制の強化に努めました。

診療面では、福岡県指定の第二種感染症病床2床を含む、病床数511床を有し、24時間365日「断らない医療」を基本に患者受入れを行っております。新型コロナウイルス感染症対応では福岡県の重点医療機関として、フェーズに応じて最大重症病床4床を含む27床の専用病床を確保し、コロナ患者の積極的な受け入れを行いました。

当院は地域医療支援病院に指定されており、地域の基幹病院としてコロナ禍においても一般診療・救急医療体制を維持・継続してきました。また、設備面では令和4年12月に、より高精度な放射線治療が可能となるよう、「リニアック装置」を更新するなど、がん診療連携拠点病院としての機能を充実しています。

予防医療では、人間ドック健診センターを院内に設置し、人間ドック並びに生活習慣病予防健診を中心に、健康増進や疾病の早期発見など、受診者の方に安心して満足いただける健診を提供しています。

赤十字の事業の一つであり、私達の使命である災害救護については、福岡県地域災害医療センター及び福岡県DMAT指定医療機関に指定されており、自治体等が主催する各種救護訓練や、福岡県支部が主催する災害救護訓練への参加等、平時から災害に備えて訓練を重ね、職員の意識、救命技術の向上に努めています。

国際救援については、令和4年4月からパレスチナ赤新月社医療支援事業に看護師1名、10月からバングラデシュ南部避難民保健医療支援事業に看護師1名を派遣し、国際赤十字・赤新月社連盟の一員として任務を全うしました。

地域の方との交流については、新型コロナウイルス感染症により長い間中止となっていた産直マルシェを約3年ぶりに開催しました。新鮮な農作物や加工品が多数出品され、多くの方が訪れ交流を深めました。



新型コロナ患者の受け入れ



リニアック更新



パレスチナ赤新月社医療支援事業



バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業



災害救護訓練



産直マルシェ

(2) 今津赤十字病院

当院は、神経難病・脳卒中・認知症疾患を持つ高齢者への診療を柱とする福岡市西区・糸島医療圏の公的医療機関として、「地域医療」、「全人的医療」、「医療と福祉の架け橋」を基本方針とし、地域住民に安心・信頼される医療サービスを提供しています。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症への対応として、福岡県からの要請に基づき、引き続き療養病棟内に受入病床3床を確保し、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れました。また、一般住民や介護施設の入所者・職員を対象とした新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種を約1,300回実施しました。

福祉施設との連携については、8月から特別養護老人ホーム海の花と嘱託医契約を締結しました。これにより、近隣の高齢者福祉施設との嘱託医契約は合計で4施設となり、施設入所者の健康管理を担うことで、地域医療に貢献するとともに、外来・入院収益の増加を図りました。

認知症に対する入院診療にあつては、精神科身体合併症疾患を持つ患者の抽出をさらに徹底し、内科医師と精神科医師の連携強化により、内科合併症を持つ認知症患者の積極的な治療と入院収益の増収に努めました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大前に年2回開催していた健康講座については、長らく中断していたところですが、感染が落ち着いた10月に地域住民を対象とした今津いきいき健康講座を近隣医療機関と共同開催し、地域住民の健康管理と認知症対応力の向上に努めました。

認知症を正しく理解し、認知症患者本人と家族を温かく見守る応援者の養成を目的とした「認知症サポーター養成講座」については、認知症患者の診療を行う病院として全職員受講を目標としており、9月にも開催しました。

在宅医療の要でもある訪問看護ステーションは、24時間対応型として、地域の診療所と密な連携を行い、乳幼児から身体・精神に障害のある高齢者に至るまで幅広い疾患や年齢層の患者に対する在宅支援を引き続き行いました。



今津いきいき健康講座



認知症サポーター養成講座

（３）嘉麻赤十字病院

当院は、嘉麻市の公的医療機関として、地域の医療需要に対応するために周辺の急性期病院・診療所・福祉施設等との連携強化を図り、二次救急告示指定病院及び在宅療養支援病院として、急性期から回復期医療、訪問診療から在宅介護に至るまで、幅広いサービスの提供に努めています。

外来診療については、新型コロナウイルス感染症の診療・検査医療機関として、新型の検査機器 ID NOW（NEAR 法）を導入し精度の高い検査に取り組むなど、地域の発熱患者等の診療を行いました。一方、入院診療においては、同感染症患者等入院受入医療機関として、一般入院患者と確実なゾーニングを行うなど院内感染防止対策を講じて、4床の受入体制を確保し、令和4年9月からは同感染症疑い患者受入医療機関（1床）の指定を受け、最大で5床の受け入れ体制へ増床・強化しました。更に、12月には同感染症に係る退院基準を満たした回復患者の積極的な受け入れを実施していくため後方支援病院に登録を行いました。

新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に関しては、職員、地域の医療従事者、高齢者施設入所者及び地域住民への個別接種の役割を担い、これまでに約6,700回のワクチン接種を行うとともに、休日に実施される嘉麻市の住民集団接種会場へ医師の派遣を行いました。

医療環境の整備においては、約5カ月間に及ぶ外壁補修、病院機能の維持に必要な改修工事、厨房設備の修繕工事と看板・案内サインを刷新し、当院竣工以来40年ぶりの大規模な改修工事を行い病院機能の強化及び患者サービスの向上に取り組みしました。

院内においては、ミニTQM（業務発表会）を開催するなど医療の質の向上にも努めております。

地域の防災対策では、赤十字病院として各関係医療機関と共に、飯塚医療圏災害前医療介護連携システムの構築に努めているところです。

令和4年度は、前年度に続いて新型コロナウイルス感染症が病院経営と診療体制に大きな影響を及ぼしましたが、感染拡大状況に配慮しながら健康診断及び特定保健指導等を継続しました。予防医療による地域の健康管理を推進し、在宅療養支援病院として付随する在宅サービス部門との連携により、地域住民の医療・看護と介護との一体的なサービス提供に努めるとともに、地域における公的医療機関として発熱症状の救急患者を含めて、夜間休日の救急搬送患者も積極的に受け入れています。



改修後の病院外壁



ミニTQM（業務発表会）

2. 病院の体制

令和5年3月31日現在

施設名	病 床 数					診 療 科 目	職 員 数				
	一般	療養	精神	感染	計		年度	医師	看護師	その他	計
福岡赤十字病院	509	—	—	2	511	内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・肝臓内科・血液・腫瘍内科・糖尿病・代謝内科・内分泌内科・腎臓内科・感染症内科・脳神経内科・神経内科・外科・呼吸器外科・心臓血管外科・消化器外科・乳腺・内分泌外科・移植外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・精神科・小児科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・救急科・歯科・歯科口腔外科・病理診断科・リウマチ科	令和4年度	213 (32)	576 (10)	381 (20)	1,170 (62)
							令和3年度	202 (25)	575 (10)	363 (12)	1,140 (47)
今津赤十字病院	90	30	60	—	180	内科・神経内科・胃腸科・精神科・リハビリテーション科・循環器科・放射線科	令和4年度	13 (6)	100 (6)	96 (26)	209 (38)
							令和3年度	15 (8)	96 (4)	96 (27)	207 (39)
嘉麻赤十字病院	135	—	—	—	135	内科・外科・眼科・耳鼻いんこう科・消化器内科・循環器内科・神経内科・整形外科・小児科・放射線科・泌尿器科・リハビリテーション科・精神科・皮膚科	令和4年度	50 (43)	86 (12)	92 (14)	228 (69)
							令和3年度	44 (37)	89 (10)	98 (16)	231 (63)
計	734	30	60	2	826		令和4年度	276 (81)	762 (28)	569 (60)	1607 (169)
							令和3年度	261 (70)	760 (24)	557 (55)	1,578 (149)

() は臨時職員・パート (内数)

3. 患者状況

(1) 入院

区分 施設名	年 度	取扱患者数		一日平均 患者数	平均在院 日数	病床利用率 (%)	診療単価 (円)
		新患者数	延 数				
福岡赤十字 病 院	令和4年度	15,089	162,628	445.6	10.5	88.2	88,980
	令和3年度	15,255	160,115	438.7	10.1	86.9	85,518
今津赤十字 病 院	令和4年度	398	53,211	145.8	107.6	81.0	24,041
	令和3年度	314	52,912	145.0	117.1	80.5	22,968
嘉麻赤十字 病 院	令和4年度	702	35,115	96.2	49.1	72.3	29,140
	令和3年度	695	37,422	102.5	52.6	77.1	29,084
計	令和4年度	16,189	250,954	687.6	—	—	—
	令和3年度	16,264	250,449	686.2	—	—	—

(2) 外来

区分 施設名	年 度	取扱患者数		一日平均患者数	平均通院日数	診療単価(円)
		新患者数	延 数			
福岡赤十字 病 院	令和4年度	26,525	237,933	979.1	9.7	22,151
	令和3年度	24,969	229,518	948.4	9.2	21,288
今津赤十字 病 院	令和4年度	407	17,798	73.2	43.7	13,006
	令和3年度	367	18,615	76.9	50.7	13,162
嘉麻赤十字 病 院	令和4年度	4,730	44,134	181.6	9.3	12,803
	令和3年度	3,254	43,479	179.7	13.4	13,527
計	令和4年度	31,662	299,865	1233.9	—	—
	令和3年度	28,590	291,612	1,205	—	—

10 血液事業

国内で使用される輸血用血液製剤は全て献血によるもので、医療機関の需要に応じた血液量を確保し、過不足なく医療機関へ届ける責務があることから、福岡県赤十字血液センターでは、安定的、効率的に献血者を確保できるような環境の整備に日々努めています。

事業を行ううえでは献血者の安定した確保が肝要ですが、少子高齢化等により献血者が減少傾向にあることから、若年層対策としての普及啓発活動や複数回献血者の確保、献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の公式アプリの導入といった様々な施策を展開しています。

また、血液製剤の使用指針や輸血療法の実施に関する指針に沿った輸血医療の推進に向けた情報提供を医療機関に対し積極的に行うなどの活動も行っています。

1. 血液センターの事業概要

(1) 献血者確保

ア. 若年層対策

高校では、献血セミナーを実施するなど献血への理解を深めていただく活動を行いました。

大学では、部活動や学生献血推進協議会等を通じて献血への働きかけを行っており、福岡学生献血推進協議会が主催する「全国学生クリスマス献血キャンペーン」では、青少年赤十字メンバーが参加しての献血啓発運動を行うなど若年層の確保に努めました。

また、「はたちの献血キャンペーン」においては、小学生以下を対象とした模擬献血体験イベント「キッズ献血」を併せて行うなど、将来に向けた普及活動も行いました。

イ. 複数回献血者の確保

令和4年9月28日より全国一斉に献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の公式アプリが導入されました。

これにより献血予約や事前の問診回答などがアプリ内で出来るようになり、献血予約率並びに複数回献血者数の向上に繋がりました。また、ラブラッド会員登録のためキャンペーンを行うなど安定的な献血者の確保に努めました。(福岡県内登録者数 約 13.2 万人 令和5年4月現在)

ウ. プロスポーツ団体との献血啓発活動

福岡ソフトバンクホークス主催の「ファイト！九州デー」が九州4県で開催され、赤十字とコラボした「ファイト！九州 献血推進プロジェクト いのちのリレー」にて、福岡県では4月16日に北九州市民球場、5月22日に福岡 PayPay ドームにて献血を実施するなど、献血普及活動を行いました。

エ. 献血功労者表彰式

福岡県内において、血液事業の推進に貢献した地域組織、事業所、学校、団体等に対して表彰式を行い、献血推進に対する意欲向上に努めました。



献血セミナー（高等学校）



全国学生クリスマスキャンペーン
（青少年赤十字メンバーによる献血呼びかけ）



キッズ献血体験（はたちの献血キャンペーン）



献血功労者表彰式

（2）血液製剤の安定供給

医療機関における短中長期を見据えた輸血用血液製剤の使用状況等の情報を収集分析し、需給予測を行い安定供給に努めました。また、適正な供給体制に向けて定時配送及び血液製剤発注システム（WEB 発注システム）の利用促進に取り組みました。

（3）地域医療機関への技術協力

福岡県合同輸血療法委員会の作業部会として、タスクフォース委員会と看護師部会が設置され、輸血医療に携わる臨床検査技師、看護師を対象とした輸血研修会を開催していますが、令和4年度の輸血研修会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催を中止しました。

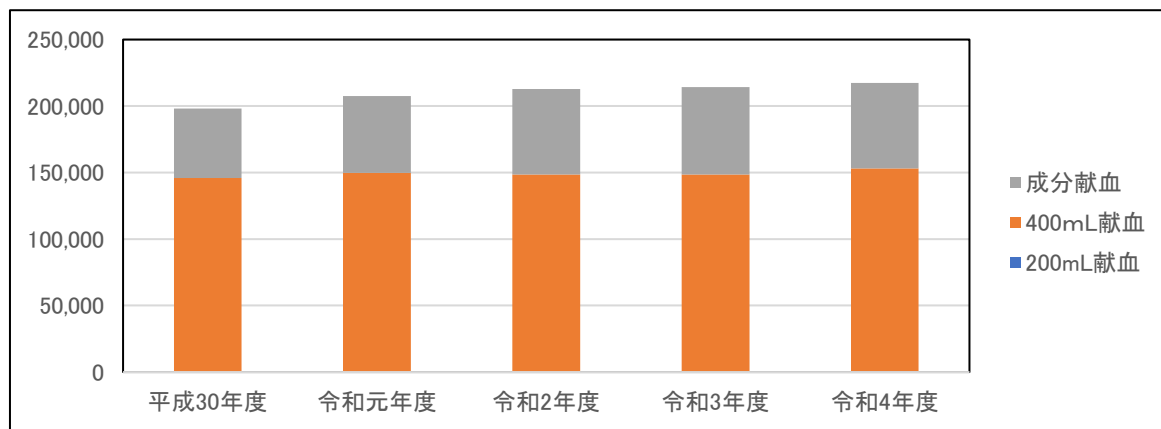
2. 福岡県内における献血及び供給の状況

(1) 献血状況

ア. 献血者の実績

令和4年度の福岡県における献血者数は217,493人で対前年度比101.5%でした。献血ルームにおいて400mL献血の確保強化を図るなど、輸血用血液製剤の安定確保に努めました。

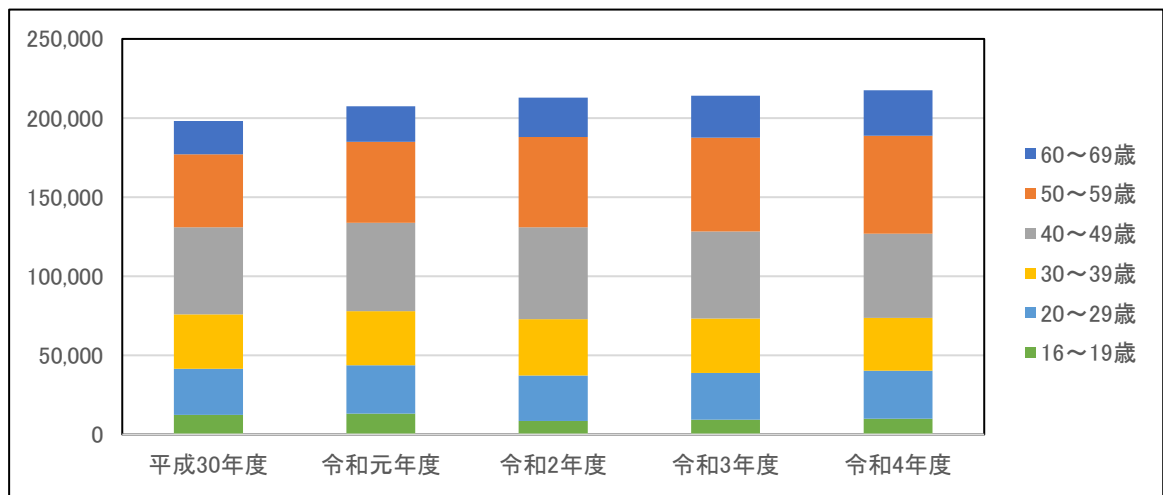
献血者数						(人)	(%)
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年比	
200mL	6	51	65	231	568	245.9	
400mL	145,968	149,808	148,546	148,329	152,530	102.8	
成分	52,159	57,567	64,262	65,621	64,395	98.1	
計	198,133	207,426	212,873	214,181	217,493	101.5	



イ. 年代別献血者の推移

福岡県の年代別の献血者の推移は、令和3年度と比較するとコロナ禍におけるリモートワーク等の影響を受け30～40代の献血者が減少しました。逆に、これまでのコロナ禍から移動採血の配車を休止していた高校、大学などの学域献血が復活してきたことにより、10～20代の若年層献血者は増加しました。更に、商業施設への配車が増加したことで他の年代の献血者数も増加しました。

年代別献血者数						(人)	(%)
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年比	
16～19歳	12,330	13,230	8,560	9,381	10,025	106.9	
20～29歳	29,292	30,447	28,765	29,580	30,295	102.4	
30～39歳	34,306	34,308	35,482	34,258	33,449	97.6	
40～49歳	55,101	55,877	58,220	55,150	53,113	96.3	
50～59歳	46,072	51,076	56,885	59,255	61,991	104.6	
60～69歳	21,032	22,488	24,961	26,557	28,620	107.8	
計	198,133	207,426	212,873	214,181	217,493	101.5	



(2) 供給状況

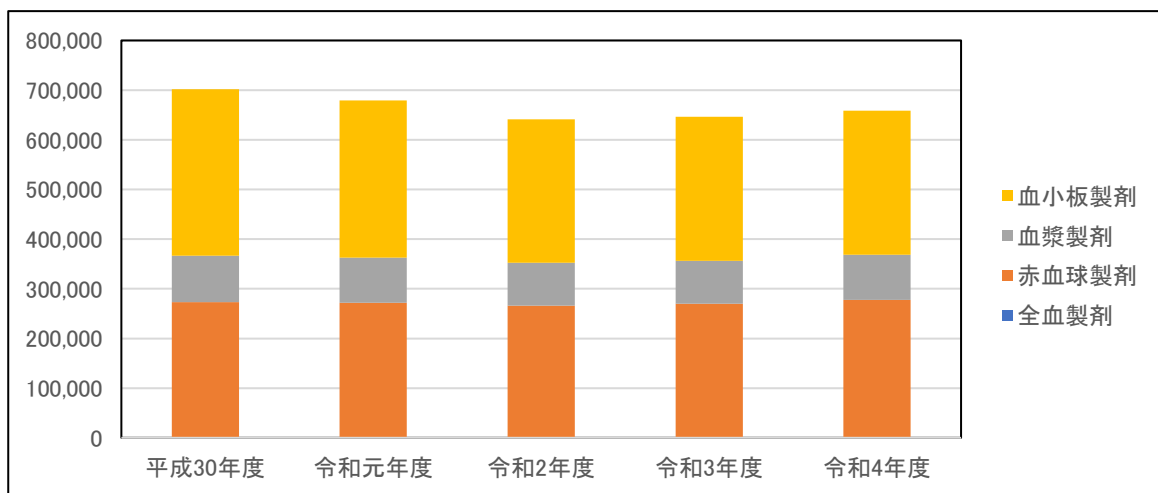
福岡県の輸血用血液製剤の供給状況は、平成 30 年度から減少していましたが、令和 3 年度から増加に転じています。新型コロナウイルス感染症による医療機関の診療制限や手術延期などが続いていたましたが、徐々に診療体制も確立されてきたこと等が要因と考えられます。

供給単位数

(200mL 換算単位)

(%)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	前年比
全 血 製 剤	0	0	0	0	0	0.0
赤 血 球 製 剤	273,189	271,814	266,003	269,824	277,734	102.9
血 漿 製 剤	93,478	91,076	86,527	86,466	90,639	104.8
血 小 板 製 剤	335,126	316,140	288,995	290,130	290,135	100.0
計	701,793	679,030	641,525	646,420	658,508	101.9



(3) 医薬情報活動の状況

福岡県内の医療機関に対して、輸血用血液製剤の適正使用や取扱い等の説明会及び輸血療法に関する情報提供を積極的に実施し、医療安全に努めていますが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため令和4年度も医療機関からの要請に応じた開催のみとなりました。

○令和4年度 医療機関への説明会

開催数	13 回
参加総数	802 人

○第26回福岡県合同輸血療法委員会

福岡県保健医療介護部薬務課主催「福岡県合同輸血療法委員会」は、新型コロナウイルス感染症感染防止対策を徹底し、福岡県庁にて集合型会議での開催となりました。

開催日	令和5年2月16日（木）
開催方法	集合型会議
テーマ	「輸血搬送装置（ATR）を用いた輸血基幹病院とクリニック間の連携による在宅輸血医療の均てん化を図る」
参加施設数	86 施設
主催	福岡県保健医療介護部薬務課

3. 職員数の状況

毎年度、血液事業本部からその事業規模に応じた職員数が定められ（職員定数）、その範囲内で事業運営をすることになっています。

	管理	総務	品質	医務	献血 推進	採血	学術 供給	検診医 など	計
令和 4年度	3 (0)	16 (2)	3 (0)	3 (1)	83 (37)	111 (12)	67 (51)	30 (30)	316 (133)
令和 3年度	3 (0)	16 (2)	3 (0)	3 (1)	80 (32)	114 (14)	66 (50)	31 (31)	316 (130)

（ ）は、各年度末の非正規職員数（内数）

11 社会福祉事業

特別養護老人ホームは、依然として厳しい経営環境にある中、新型コロナウイルス感染症対策の徹底や、更なる人材確保や育成を図り、利用者の方々が安全・安心で快適に生活できるよう経営基盤の強化に努めています。

また、良質な介護サービスの提供を行うため、介護現場への IT 化や資質向上に向けた介護研修への受講を推進しました。

1. 社会福祉施設の事業概要

(1) 特別養護老人ホーム大寿園

ア. 新型コロナウイルス感染症等予防への取組み

- (ア) 施設内での新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ感染症等の感染症防止対策の取り組み強化を実施。
- (イ) 新型コロナウイルス等感染症発生時における、業務継続計画（BCP）マニュアルの更新整備を実施。

イ. 介護職員の安定確保・人材育成

- (ア) 求人情報誌やオンライン求人サイトへの掲載・人材派遣等を活用した人材確保及びシニア世代の働き手を採用。
- (イ) 良質な介護サービス提供と職員のスキルアップを図るための e ラーニングを活用した教育環境の整備や施設内実技研修を実施。

ウ. 施設設備整備の改修

- (ア) 行政等の各種補助金を活用し、老朽化した施設設備整備を行い、利用者が安全安心に暮らせる環境づくりを実施。

エ. 経営の安定化

- (ア) 介護・看護が連携したケアを行い、入院を最小限に抑え円滑なベッドコントロールによる空床状態の解消を行い利用率向上に向けた取り組みを実施。
- (イ) 科学的介護情報システム（LIFE）関連加算を新たに取得。



ひな祭り



施設内実技研修

(吐物処理・ガウンテクニック)

(2) 特別養護老人ホームやすらぎの郷

ア. 各部門（特養・ショート・デイサービス）での利用者確保

- (ア) 安定的な利用者確保のため、デイサービスから特養の利用まで、切れ目ないサービスを受けられる施設であり、“看取り介護”が可能な施設であることのPRを継続実施。
- (イ) コロナ感染予防対策として嘱託医と連携した利用者および職員の予防接種を実施。
また、定期的な抗原検査の実施による施設内での感染拡大リスクを低減。
- (ウ) 福岡赤十字病院感染管理室の施設内ラウンドやシミュレーション訓練の実施等による施設内コロナ発生時の対応体制の強化。

イ. 新たな介護人材の確保対策実施

- (ア) 介護福祉専門学校奨学会事業に基づき外国人介護人材を含む介護職員確保対策を実施。
また、外国人留学生を含む介護実習生の受け入れによる施設のPRを実施。
- (イ) 令和2年度から取得している介護職員等特定処遇改善加算の継続取得。
- (ウ) 実習生の受け入れ態勢の充実を図るため、介護福祉士実習指導者講習会の受講を推進。
- (エ) 介護ソフトおよびタブレット端末等を有効活用し、業務効率の改善を促進。

ウ. 地域との連携・交流活動

- (ア) 志免町『認知症初期集中支援チーム』の一員として当施設の主任ケアマネージャーが参画、地域における認知症等の早期発見および対応に貢献。
- (イ) 近隣の中学校および高等学校からの施設訪問を受入れ、利用者との交流活動を実施。

エ. ボランティア活動団体や利用者ご家族との連携強化

- (ア) 地域のボランティアの方々による草刈りおよび清掃活動の受け入れを実施。
- (イ) コロナ禍においても、ご家族と利用者の繋がりを守るためオンラインやアクリル板、ガラス張りの部屋を活用し、感染対策に配慮・工夫を図った面会を実施。

オ. 職員研修の充実と促進

- (ア) 喀痰吸引等研修講師養成研修等のスキルアップ研修受講を継続して推進。
- (イ) バーンアウトや離職等のリスクを未然に防止するため、ストレスマネジメント研修受講を促進。



外国人留学生の実習受け入れ



宇美東中学校との交流

(3) 特別養護老人ホーム豊寿園

ア. 新型コロナウイルス感染対策の徹底と特養利用者の安定確保。

- (ア) 新型コロナウイルスの発生を受け、職員の週2回の抗原検査実施による感染拡大防止を実施。
- (イ) 長期入院者の状況を把握し、効率的なベッドコントロールの実施。
- (ウ) テレビ電話・窓越しを利用した、面会の実施。

イ. ショートステイ・デイサービス利用者の安定確保。

- (ア) ご利用前の新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し、サービス提供を継続。
- (イ) 空き情報を提供し、利用者情報を的確に把握したベッドコントロールによる空床利用の促進。

ウ. 利用者処遇の更なる充実

- (ア) 介護度や認知症の状態に応じた個別ケアの実施、生活環境の整備。
- (イ) 公益社団法人 JKA 補助事業活動を活用し、特殊浴槽一式を更新整備。
- (ウ) 2階特養棟の看取り室の改修工事を実施。
- (エ) 看取り介護及び歯科衛生士による口腔ケアの充実。

エ. 各種研修会等への積極的参加

- (ア) 介護職員のスキルアップのため、喀痰吸引等研修への参加。
- (イ) 職員全体の資質向上のため、オンライン研修による各種研修会への参加。

オ. 介護職員の人材確保

- (ア) 安定的な人材確保を維持するため、公的機関及び民間のオンライン求人サイトへの掲載を実施。

カ. 地域貢献活動及び広報活動の強化

- (ア) 松ヶ江市民センターでの「認知症についてのお話と体操」の出前講座の実施。
- (イ) 松ヶ江福祉の郷における市職員ボランティア会の方々と、清掃活動の実施。
- (ウ) 広報誌、ホームページ、SNS を活用した、情報の積極的な広報活動。



地域交流

(「認知症についてのお話と体操」出講)



行事「歌謡ショー」

2. 社会福祉施設の体制

令和5年3月31日現在

区分 施設名	サービス内容・定員数	職員数					
		年度	事務職	介護職	看護職	その他	計
大 寿 園	特別養護老人ホーム 150 人	令 和 4 年度	6 (1)	63 (17)	10 (7)	35 (23)	114 (48)
	ショートステイ 8 人						
	デイサービス 30 人	令 和 3 年度	6 (1)	61 (17)	11 (8)	34 (21)	112 (47)
	ケアプランセンター —						
やすらぎの郷	特別養護老人ホーム 100 人	令 和 4 年度	6 (1)	57 (19)	7 (1)	20 (17)	90 (38)
	ショートステイ 20 人						
	デイサービス 30 人	令 和 3 年度	7 (2)	55 (18)	7 (1)	20 (17)	89 (38)
	ケアプランセンター —						
	ケアハウス 20 人						
豊 寿 園	特別養護老人ホーム 100 人	令 和 4 年度	7 (2)	51 (12)	6 (0)	28 (25)	92 (39)
	ショートステイ 20 人						
	デイサービス 12 人	令 和 3 年度	6 (2)	55 (17)	7 (1)	29 (26)	97 (46)
	ケアプランセンター —						
計	特別養護老人ホーム 350 人	令 和 4 年度	19 (4)	171 (48)	23 (8)	83 (65)	296 (125)
	ショートステイ 48 人						
	デイサービス 72 人	令 和 3 年度	19 (5)	171 (52)	25 (10)	83 (64)	298 (131)
	ケアプランセンター —						
	ケアハウス 20 人						

臨時職員・パート（内数）

3. 利用者状況

区分 施設名	サービス内容		令和4年度			令和3年度		
			延利用者数	一日平均 利用者数	利用率 (%)	延利用者数	一日平均 利用者数	利用率 (%)
大 寿 園	特別養護老人ホーム		47,433	130.0	86.6	51,557	141.3	94.2
	ショートステイ		973	2.7	33.3	1,101	3.0	37.7
	デイサービス※	45名	1,703	22.1	49.1	7,608	23.1	48.9
		30名	5,340	23.2	77.3			
やすらぎの郷	特別養護老人ホーム		36,424	99.8	99.8	35,810	97.9	97.9
	ショートステイ		4,407	12.07	60.4	5,074	11.0	55.1
	デイサービス		5,006	17.94	65.44	5,491	26.5	58.2
豊 寿 園	特別養護老人ホーム		34,676	95.26	95.0	36,327	98.0	98.0
	ショートステイ		3,765	10.34	51.5	4,845	15.8	79.1
	デイサービス		2,437	7.15	59.5	3,155	8.2	68.1
計	特別養護老人ホーム		118,533	325.06	－	123,694	337.6	－
	ショートステイ		9,145	25.11	－	11,020	32.1	－
	デイサービス		14,486	70.39	－	16,254	55.7	－

※大寿園のデイサービスについて、令和4年7月1日に定員を変更（45名から30名）しているため2段にて表示。

主 な 行 事

4
月

- 支部職員対象非常招集訓練（福岡市）
- 日本赤十字九州国際看護大学入学式（宗像市）
- 紺綬会常任委員会議
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習

10
月

- 支部災害対策本部運営訓練（福岡市）
- 福岡空港航空機事故対策部分訓練（福岡市）
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習（中止）
- 健康生活支援講習支援員養成講習
- 健康生活支援講習指導員養成講習
- 紺綬会常任委員会議

5
月

- 赤十字運動月間キャンペーン
- レッドライトアッププロジェクト
- 街頭イベント
- 福岡県総合防災訓練（篠栗町・須恵町）
- 福岡市市民総合防災訓練（福岡市）
- 救護員育成訓練（共通過程：動画視聴形式）
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 福岡県青少年赤十字指導者協議会総会
- 全国赤十字大会（東京都）
- 地区（本部）分区分赤十字担当者研修会（オンライン形式）
- 管内施設業務監査
- 支部業務監査

11
月

- 青少年赤十字100周年記念大会
「第17回青少年赤十字福岡県大会」（福岡市）
- 九州八県支部合同災害救護訓練（福岡県）
- 福岡市災害対策本部図上訓練（福岡市）
- 福岡市防災フェア（福岡市）
- 九州八県赤十字大会（宮崎県）
- 福岡マラソン2022臨時救護
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 健康生活支援講習指導員養成講習
- 幼児安全法支援員養成講習
- 令和4年度献血功労者表彰式（福岡市）

6
月

- 救護医師、救護看護師基礎・応用
合同訓練（福岡市）
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 健康生活支援講習支援員養成講習
- 教職員対象着衣泳体験指導講習
- 令和4年度第1回評議員会（文書審議）

12
月

- 救急法基礎講習
- 「NHK海外たすけあい」キャンペーン
- 福岡県日赤紺綬会第62回総会（福岡市）

7
月

- 救護主事基礎訓練（福岡市）
- 救護主事応用訓練（久留米市）
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 水上安全法救助員Ⅰ養成講習（中止）
- 幼児安全法支援員養成講習

1
月

- 福岡県国民保護図上訓練（福岡市）
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 第6ブロック赤十字奉仕団委員長会議

8
月

- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 水上安全法救助員Ⅰ養成講習（中止）
- 福岡県青少年赤十字リーダーシップ・
トレーニング・センター（福岡市・北九州市）
- 九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会

2
月

- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 福岡県青少年赤十字研究会
- 地区（本部）分区分赤十字担当者会議（オンライン形式）
- 令和4年度第2回評議員会
- 永年勤続者表彰式
- 地域包括ケアにかかる意見交換会（オンライン形式）
- 防災教育事業指導者意見交換会（オンライン形式）
- 地域赤十字奉仕団委員長会議（福岡市）

9
月

- 第58回献血運動推進全国大会（愛媛県：WEB）
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習（中止）
- 水上安全法救助員Ⅰ養成講習（中止）
- 健康生活支援講習指導員養成講習
説明会・事前研修会（福岡市）

3
月

- トルコ・シリア地震救援金街頭募金（福岡市）
- 事業推進業務連絡会議（オンライン形式）
- 救急法基礎講習
- 救急法救急員養成講習
- 健康生活支援講習新任指導員研修会
- 救急法・水上安全法指導員研修会
（オンライン形式）
- 健康生活支援講習・幼児安全法指導員研修会
（オンライン形式）
- 紺綬会常任委員会議
- 日本赤十字九州国際看護大学卒業式（宗像市）
- 相続・遺言・寄付セミナー

支 部 管 内 施 設

令和5年4月1日現在

支 部

施 設 名	事務局長	所 在 地	電 話 番 号
日本赤十字社福岡県支部	後藤 和孝	〒815-8503 福岡市南区大楠3-1-1	092-523-1171
久留米赤十字会館		〒839-0801 久留米市宮ノ陣3-4-27	0942-36-5858

病 院

施 設 名	院 長	所 在 地	電 話 番 号
福岡赤十字病院	中房 祐司	〒815-8555 福岡市南区大楠3-1-1	092-521-1211
今津赤十字病院	藤井 弘二	〒819-0165 福岡市西区今津377	092-806-2111
嘉麻赤十字病院	小野 洋	〒821-0012 嘉麻市上山田1237	0948-52-0861

血液センター

施 設 名	所 長	所 在 地	電 話 番 号
福岡県赤十字血液センター	熊川 みどり	〒818-8588 筑紫野市上古賀1-2-1	092-921-1400
福岡県赤十字血液センター 北九州事業所		〒806-0044 北九州市八幡西区相生町15-1	093-631-1211
献血ルーム おっしょい博多		〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街2-1 博多バスターミナル8階	092-476-1400
献血ルーム キャナルシティ		〒812-0018 福岡市博多区住吉1-2-25 キャナルシティ・ビジネスセンタービル1階	092-272-5853
献血ルーム 天神西通り		〒810-0001 福岡市中央区大名1-15-1 天神西通りスクエア 地下1階	092-726-1188
献血ルーム 魚町銀天街		〒802-0006 北九州市小倉北区魚町1-3-3	093-551-1211
献血ルーム くらさきクローバー		〒806-0036 北九州市八幡西区西曲里町3-1 イオンタウン黒崎1階	093-644-1211

社会福祉施設

施 設 名	園 長	所 在 地	電 話 番 号
特別養護老人ホーム大寿園	森下 亨	〒819-0165 福岡市西区今津520	092-806-6100
特別養護老人ホームやすらぎの郷	荒木 ひとみ	〒811-2208 粕屋郡志免町大字吉原600	092-936-2022
特別養護老人ホーム豊寿園	熊本 貴志	〒800-0112 北九州市門司区大字畑1808-5	093-481-1121

看護大学

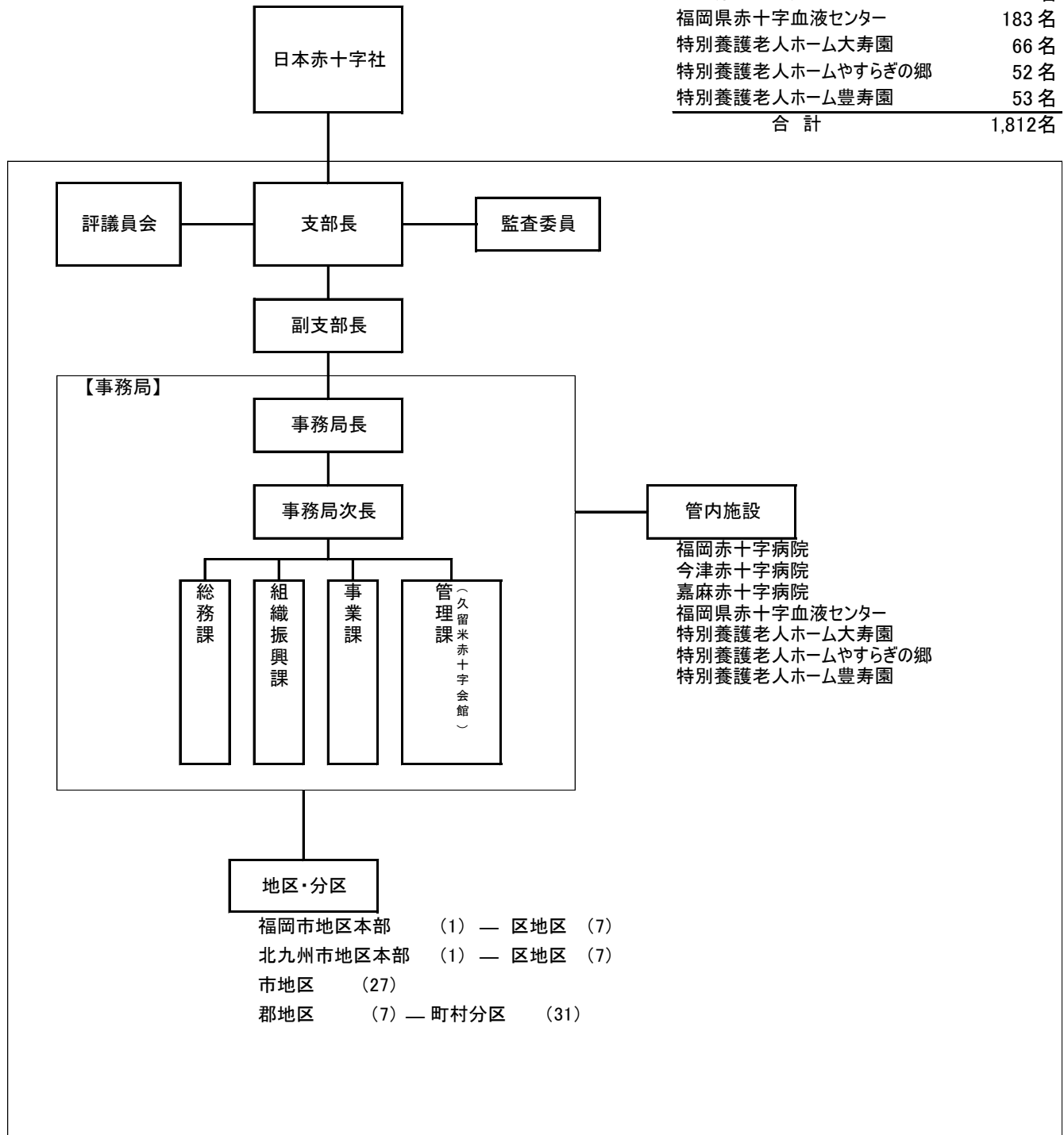
施 設 名	学 長	所 在 地	電 話 番 号
学校法人日本赤十字学園 日本赤十字九州国際看護大学	小松 浩子	〒811-4157 宗像市アスティ1-1	0940-35-7001

支部機構

令和5年4月1日現在

【正職員数】

日本赤十字社福岡県支部	20名
福岡赤十字病院	1,108名
今津赤十字病院	171名
嘉麻赤十字病院	159名
福岡県赤十字血液センター	183名
特別養護老人ホーム大寿園	66名
特別養護老人ホームやすらぎの郷	52名
特別養護老人ホーム豊寿園	53名
合 計	1,812名



【関係団体】

日本赤十字九州国際看護大学

【本社直轄施設】

日本赤十字社九州ブロック血液センター

支部役員名簿

令和5年4月1日現在

評議員(69名)

役職	氏 名
支 部 長	服 部 誠 太 郎
副支部長 (2名)	大 曲 昭 恵
	白 石 博 昭
監査委員 (2名)	森 山 敦 文
	平 島 研 二
本社理事 (1名)	荒 牧 智 之
本社代議員 (9名)	高 島 宗 一 郎
	武 内 和 久
	井 上 澄 和
	永 原 譲 二
	木 下 幸 子
	荒 牧 智 之
	澁 田 繁 晴
	津 村 洋 一 郎
	日 向 祥 剛

No.	氏 名
1	山 地 正 樹
2	北 原 明 彦
3	澁 田 繁 晴
4	平 野 能 章
5	三 亀 幹 治
6	高 島 宗 一 郎
7	武 内 和 久
8	今 井 是 生
9	木 下 幸 子
10	庄 野 ま り 子
11	小 松 浩 子
12	阿 部 美 樹
13	谷 口 恭 二
14	高 木 三 郎
15	井 口 宏 樹
16	久 田 章 浩
17	西 村 孝 志
18	満 生 美 保
19	駒 田 浩 良
20	谷 延 正 夫
21	島 本 喜 多 江
22	園 秀 一
23	中 村 啓 子
24	尊 田 利 文
25	北 原 正 利

No.	氏 名
26	喜 洲 淳 哉
27	奥 野 静 人
28	森 川 満
29	大 石 紀 代 子
30	神 野 洋 一
31	太 田 康 子
32	武 田 信 一
33	浜 和 枝
34	川 崎 勝 之
35	池 田 博 子
36	中 村 珠 美
37	大 谷 和 彦
38	片 峯 誠
39	井 上 節 子
40	二 場 公 人
41	金 子 健 次
42	三 田 村 統 之
43	西 田 正 治
44	倉 重 良 一
45	田 中 純
46	後 藤 元 秀
47	福 田 浩
48	平 井 一 三
49	井 上 澄 和
50	井 本 宗 司

No.	氏 名
51	加 地 良 光
52	伊 豆 美 沙 子
53	楠 田 大 蔵
54	月 形 祐 二
55	田 辺 一 城
56	原 崎 智 仁
57	高 木 典 雄
58	塩 川 秀 敏
59	林 裕 二
60	赤 間 幸 弘
61	松 嶋 盛 人
62	武 末 茂 喜
63	吉 留 節 子
64	古 野 修
65	松 崎 利 雄
66	玉 井 弘 樹
67	広 松 栄 治
68	道 廣 幸
69	遠 田 孝 一

支部沿革

年 月 日	あ ゆ み
明治21年12月17日	福岡県兵事課内に委員部設置（委員長に安場保和知事就任）
12月28日	第1回の社員章及び締盟状授与式を行う（正社員130名）
明治27年9月7日	福岡県委員部が支部に昇格（初代支部長に岩崎小二郎知事就任）
10月	支部に速成看護婦養成所設立
明治29年11月7日	支部第1回社員総会を開く 佐野社長の大演説あり（社員3,500名出席）
明治33年10月	赤十字表礼を作って社員の門戸に掲示する （後に全国的に普及することとなる）
明治35年5月16日	支部庁舎新築落成式
明治37年2月15日	篤志看護婦人会福岡支会発会式（初代支会長に深野次子知事夫人就任）
明治39年2月	福岡支部所管の第114救護班（看護人組織）22名仁川に出発 （日本赤十字社が戦地に救護班を派遣した最初である）
明治40年7月20日	日露戦争救護活動終了 （福岡支部から医師8、薬剤師3、婦長9、看護婦46、看護人44、計113名派遣）
明治43年4月	田川郡豊国炭坑ガス爆発（230名死亡。50名負傷）に支部救護班派遣
大正3年11月17日	支部第2回社員総会へ閑院総裁宮殿下ご台臨
大正5年11月11日	第1回篤志看護婦人会福岡支会総会も同時に開催、閑院宮妃殿下ご台臨
大正9年5月20日	支部召集第84救護班24名を青島に派遣
5月	天皇陛下を迎え福岡県下で陸軍特別大演習が実施され、支部は7個救護班を編成して演習に参加
11月8日	全国に先駆け県下全市郡の巡回診療を開始
大正11年11月	門司、若松に診療所開設（全国でわずか5診療所開設）
大正12年9月1日	陸軍特別大演習が福岡、大分県下で実施、築上郡東吉富村に救護所3ヶ所を設置
10月	戸畑診療所開設
昭和4年7月1日	関東地方に大震災発生、支部救護班は2日に出発、3日に入京し救護にあたる
8月2日	4日に後続2個班出発（医師6、看護婦33、事務3、計42名 取扱患者延19,721名）
昭和5年3月30日	（全国44支部・83ヶ班・患者実数562,380名・救護員4,466名）
昭和6年8月	福岡支部に少年赤十字誕生
昭和6年9月	今津村所在結核療養所を5万円で買収、今津療養院と改称
昭和7年1月5日	（45床、職員14名、初代院長に秋武六一郎就任）
3月7日	夏季児童保養所を初めて開設
3月17日	日本赤十字社総裁閑院宮戴仁親王殿下のご台臨を仰ぎ、ご親授式並社員大会、青少年赤十字
10月30日	大会開催（20,000名参加）
昭和8年4月	鞍手郡宮田町に宮田診療所開設
4月	門司市庄司元町に門司診療所開設
5月	満州事変に対し福岡支部から第5臨時救護班を編成、朝鮮龍山陸軍病院へ派遣（25名）
6月	臨時第12救護班（大分支部編成）に福岡支部から看護婦2名が参加亀川海軍病院へ派遣
7月	中支上海に13救護班派遣
昭和9年9月	閑院宮殿下を迎え有功章など御親授式を行う
昭和10年9月	遠賀郡岡垣村に岡垣診療所開設
昭和11年9月	行橋隣保館を福岡県より移管、行橋診療所及び行橋保育所を開設
12月	日本赤十字社総裁閑院宮戴仁親王殿下のご台臨を仰ぎ御親授式、今津療養院ご視察
昭和12年3月	福岡市須崎町支部構内に福岡診療所開設
6月	門司市大里に大里診療所開設
8月17日	福岡支部病院建設のため福岡市永田町25番地に田畝19,611坪を購入整地す（1坪4円50銭当）
9月25日	京都郡犀川町に犀川診療所開設
9月	企救郡曾根町に曾根診療所開設
10月	支部社員数10万人を突破する
昭和13年4月	田川郡伊田町に伊田診療所開設
昭和14年4月	若松市老松町に若松診療所開設
昭和14年6月	第84救護班召集編成病院船に派遣（班員28名）
	第85救護班編成中支那上海兵站病院に派遣（班員24名）
	第114救護班召集編成上海兵站病院に派遣（班員24名）
	第161救護班召集編成小倉陸軍病院へ派遣（班員22名）
	大牟田市に集団赤痢発生8支部より救護班派遣（死者400名、罹患10,000名を越す）
	動員下令に基づき召集編成、病院船、陸軍病院、満州、北支、中支、ビルマ等へ夫々救護班を派遣
	嘉穂郡山田町に建築中の診療所竣工、支部に移管、山田診療所として発足
	今津赤十字病院に乙種救護看護婦養成所開設
	京都郡泉村に中山診療所開設

年 月 日	あ ゆ み
昭和15年11月	支部社員総会へ徳川囀順社長出席
昭和16年11月6日	徳川社長を迎え、特別社員総会を開く（来会6,000名）
12月8日	第2次世界大戦起こる この年、2救護班を満州と南方に派遣
昭和17年10月31日	総裁梨本宮妃殿下を迎え篤志看護婦人会福岡支会第3回会員大会開く
昭和17年12月	支部社員数20万人を突破す。この年救護班3班を南方へ派遣
昭和18年7月1日	この年、5救護班を満州、華北へ派遣。支部社員数30万人を越える
昭和19年5月	小倉市三萩野に小倉診療所開設
	この年、6救護班を内地陸海軍病院へ派遣
昭和20年6月19日	米軍機空襲により福岡市灰燼と化し支部焼失
	支部事務所を高宮公会堂に移し、後、住吉小柳町石橋鉄工所2階に移す
8月15日	大東亜戦争終結。当支部が昭和12年7月から内外地に派遣した救護班は32ヶ班1,223名（大阪支部に次ぐ多数）
	この年、4救護班を国立筑紫病院外派遣（戦時救護収拾のため）
昭和22年3月	中山、岡垣両診療所廃止
7月	家庭看護法、救急法、水上安全法の普及講習会再開
8月22日	現在地に100坪のバラック建支部事務所を建築移転
12月	支部事務所の一部に福岡診療所を開設
昭和23年3月	今津赤十字病院乙種救護看護婦養成所閉鎖（養成数129名）
4月	支部敷地の内10,000坪を高宮中学校建設用地に売却（200万円也）
9月8日	小倉市第一中学校青少年赤十字団結成 10月田川郡糸田小学校3年1組結成
11月29日	福岡市原小学校青少年赤十字団結成
昭和24年2月3日	山門郡柳城中学校青少年赤十字団（170名）結成
11月	三潁郡木佐木村八丁牟田に三潁診療所開設
12月	支部庁舎完成（木造2階建延116坪）移転
昭和25年2月11日	支部庁舎新築落成式挙行 島津社長出席
5月	大里診療所、門司市大里に建物を購入移転
7月	浮羽郡竹野村に竹野診療所開設
昭和26年	支部構内に製薬所を建築、薬物研究所発足
7月	糸島郡前原町に糸島診療所開設
8月	宗像郡岬村に岬診療所開設
昭和27年10月	定款の改正により、福岡県支部に改称
昭和28年6月26日	西日本水害発生、筑後川流域及び遠賀川地区ほか13救護班派遣
	関東以西各県支部より救恤品処理応援を受ける
	島津社長1週間に亘り被害現地を視察
昭和29年12月	福岡赤十字病院内に血液銀行開設
昭和30年3月	京都郡勝山町に黒田診療所開設
3月	支部救護資材倉庫建築
3月	支部救護員宿泊施設建設
昭和32年7月	西九州水害のため長崎県南高来郡多比良町へ救護班派遣
昭和33年4月	福岡赤十字高等看護学院第1回生入学
	名誉総裁皇后陛下、副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、九州七県支部連合赤十字大会開催
昭和34年11月30日	福岡県日赤紺綬会発会式（クラブ九州にて）
昭和35年5月8日	名誉副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、九州各県支部連合災害救護演習を実施（久留米市）
昭和36年3月6日	上清炭坑ガス爆発救護班派遣、72名死亡
3月31日	玄海島出張診療所を福岡市へ移管
11月30日	名誉総副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、第1回青少年赤十字福岡県大会開催（千代小学校）
昭和37年1月	竹野診療所廃止
3月	門司、曾根両診療所廃止
10月20日	福岡県赤十字血液銀行開設
昭和38年6月	若松診療所廃止
7月	大里診療所廃止
8月	福岡赤十字病院へ移管の三潁、糸島両診療所廃止
11月9日	三井三池炭鉱爆発事故発生に対し救護班派遣
昭和39年2月	集団赤痢発生、市立荒津病院へ看護婦派遣
2月	岬、久留米助産院、福岡薬物研究所廃止
5月1日	胃集団検診開始
6月	集団赤痢発生、宗像町、古賀町伝染病院へ看護婦派遣
昭和39年11月	黒田診療所廃止
昭和40年6月17日	名誉総副総裁秩父宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、第2回青少年赤十字福岡県大会開催
7月	小倉診療所廃止

年 月 日	あ ゆ み
9月	第1回福岡県献血運動推進大会開催
昭和41年1月	犀川診療所廃止
3月	行橋保育所を行橋市へ移管
7月 1日	北九州赤十字血液センター新築開設
昭和42年11月12日	北朝引揚帰還協定契約満了に伴い各市町村窓口を閉鎖
昭和43年3月	行橋診療所廃止
昭和44年5月8日	高松宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、九州七県支部連合赤十字大会を開催
9月	子宮癌集団検診開始
昭和45年2月	八幡診療所廃止
4月5日	日本航空よど号乗取り事件発生、乗客の安全確保のため板付空港に2日間救護班派遣
昭和46年3月22日	福岡県赤十字血液センター新築移転（須崎ビル）
昭和47年11月30日	福岡赤十字病院本館落成
昭和49年10月31日	三笠宮妃殿下ご台臨のもと九州八県支部連合赤十字大会を開催
昭和50年8月27日	大韓赤十字社釜山直轄市支社と姉妹協定締結
昭和51年11月17日	常陸宮妃殿下ご台臨を仰ぎ、支部社屋並びに災害救護センター落成
昭和52年4月	本社創立100周年を期して支部長期事業計画策定
昭和53年7月26日	山田市にベトナム難民収容施設「大法園」開設（園長 伊藤愛助）
10月25日	高松宮妃殿下ご台臨を仰ぎ、支部創設90周年記念赤十字大会を開催
昭和54年3月19日	北九州赤十字血液センター新築移転（八幡西区）
4月5日	特別養護老人ホーム「大寿園」開設
昭和57年4月1日	支部第2次長期5ヶ年計画策定 日赤各地区へ災害救護車の配備始まる
昭和59年10月9日	福岡赤十字病院奉仕団結成（団員21名）
昭和60年4月	福岡県赤十字血液センター新築移転（筑紫野市）
昭和62年7月31日	青少年赤十字メンバー1名をタイ・ネパールへ派遣 ～8月17日迄
10月16日	ネパール保健衛生事業の指導のため、福岡赤十字看護専門学校江田柳子教師を派遣 ～昭和63年4月17日迄
昭和63年3月31日	ベトナム難民収容施設「大法園」閉園
4月9日	今津赤十字病院落成
5月27日	日本赤十字社福岡県支部創設百周年赤十字大会を開催
9月10日	支部創設100周年記念「赤十字国際救護チャリティコンサート」を開催
10月31日	青少年赤十字再建40周年記念全国大会（静岡県・YMCA東山荘）に参加 ～11月2日迄
11月29日	赤十字奉仕団創立40周年記念全国奉仕活動研究大会（東京都）に参加 ～30日迄
平成元年7月24日	皇太子殿下 今津赤十字病院ご訪問
11月7日	福岡県日赤紺綬会創立30周年記念総会開催
8日	九州八県支部連合赤十字大会開催
12月16日	中国民航機ハイジャック救護のため福岡空港へ救護班派遣
平成2年6月13日	献血ルーム「はかた祇園」開所
平成3年3月31日	献血ルーム「くるめ1番街」開所
平成4年11月1日	第7回青少年赤十字福岡県大会（福岡市・中央市民センター）
平成5年5月8日	統一ボランティアDAY'93開催（第1回）
7月29日	全国赤十字老人ホーム連絡協議会（太宰府） ～31日迄
平成5年9月26日	ホームヘルパー研修講師海外研修のため支部職員1名をアメリカ・カナダへ派遣 ～10月9日迄
平成6年11月16日	福岡県日赤紺綬会創立35周年記念総会（九州厚生年金会館）
平成7年1月17日	兵庫県南部地震発生（阪神・淡路大震災）
18日	神戸市へ第1次～第6次医療救護班延べ52名派遣 ～2月19日迄
10月16日	特別養護老人ホーム「大寿園」増改築工事竣工
平成8年2月8日	福岡赤十字病院腎センター落成
3月3日	中国紅十字会救急法交流団訪中 ～10日迄
5月30日	特別養護老人ホーム「やすらぎの郷」落成
6月13日	福岡空港ガルーダ・インドネシア航空機墜落事故（救護班24名派遣）
平成9年3月4日	第6ブロック支部国際交流事業（フィリピン派遣） ～7日迄
5月29日	特別養護老人ホーム「豊寿園」落成
10月25日	日本赤十字社創立120周年記念国際救護チャリティーコンサート（アクロス福岡）
平成10年11月1日	青少年赤十字創設75周年及び第9回青少年赤十字福岡県大会（大楠小学校）
18日	日本赤十字社福岡県支部創設110周年・福岡県赤十字奉仕団創設50周年記念大会並びに 福岡県日赤紺綬会第39回総会（アクロス福岡）
18日	地雷犠牲者救援チャリティー写真展（ソラリアプラザ 入場者11,351名） ～24日迄
19日	九州八県支部連合赤十字大会（電気ビル）
12月6日	福岡県赤十字視察団（中国江蘇省派遣） ～12日迄
平成11年6月28日	地雷犠牲者救援チャリティー写真展（久留米市）

年 月 日	あ ゆ み
8月2日	地雷犠牲者救援チャリティ写真展（大野城市） ～6日迄
11月10日	福岡県日赤紺綬会第40回総会（電気ホール）
12月24日	日本赤十字九州国際看護大学起工式
平成12年1月28日	地雷犠牲者救援チャリティ写真展（八幡東区）
6月28日	（財）福岡県市町村振興協会より受託の2級ホームヘルパー養成研修開始
12月21日	日本赤十字九州国際看護大学設置認可
平成13年3月29日	日本赤十字九州国際看護大学及び講堂棟合同竣工式
31日	福岡県と特別養護老人ホーム大寿園用地の売買契約書締結（平成13年7月4日登記済）
4月5日	日本赤十字九州国際看護大学入学式（114名）
5月22日	山田ホームヘルパー研修センター竣工
6月29日	久留米赤十字会館（仮称）起工式
平成14年3月8日	福岡赤十字看護専門学校閉校
4月28日	元日本赤十字社福岡県支部救護看護師ナイチンゲール記章受賞者高瀬松子氏葬儀
5月7日	日本赤十字社創立125周年記念日韓交流チャリティーコンサート ～10日迄
16日	日本赤十字社法制定50周年・日本赤十字社創立125周年記念全国赤十字大会
27日	日本赤十字九州国際看護大学学生奉仕団「オリーブ」結団式
6月17日	久留米赤十字会館定礎式
7月18日	久留米赤十字会館オープン記念式典（名誉副総裁寛仁親王妃信子殿下ご臨席）
31日	2002アジア太平洋青少年赤十字研修会へ日本赤十字九州国際看護大学生及び職員3名を韓国ソウルへ派遣 ～8月5日迄
10月3日	韓国赤十字社職員及び政府公務員17名視察研修のため来福 ～4日迄 （支部・やすらぎの郷・福岡市役所）
平成15年1月6日	大韓赤十字社テグ広域市支社青少年赤十字メンバー83名訪問
2月5日	大韓赤十字社インチョン支部青少年赤十字メンバー35名訪問
26日	甘木市立蜷城小学校青少年赤十字結成50周年記念式典
3月10日	H.E.L.P in JAPAN 2003 開催（日本赤十字九州国際看護大学）～28日迄
20日	赤十字介護フォーラムin福岡（アクロス福岡）
平成16年1月30日	イラン南東部地震被災者救援事業のため福岡赤十字病院橋本看護師派遣～2月23日迄
3月8日	介護フォーラムin北九州開催（小倉北区）
3月13日	イラン南東部地震被災者救援事業のため福岡赤十字病院河口看護師派遣～3月30日迄
6月1日	福岡県赤十字血液センター天神中央出張所（イムズ8F）オープン
7月1日	福岡県赤十字血液センター博多出張所（キャナルシティ）リニューアルオープン
10月28日	新潟県中越地震災害救護のため医療救護班派遣（計2班・13名）～11月8日迄
10日	新潟県中越地震災害救護のため「こころのケア」指導員（2名）派遣 ～11月18日迄
12日	福岡県日赤紺綬会創立45周年記念総会（電気ホール）
18日	フィリピン赤十字社代表団（4名）受入 ～21日迄
27日	特別養護老人ホーム大寿園25周年式典（シーホーク）
平成17年1月24日	中国紅十字会血液代表団（4名）受入
3月1日	スマトラ島沖地震・津波被災者救援事業へ福岡赤十字病院川口看護師、山本主事派遣（ERU第5班）～4月13日迄
20日	福岡県西方沖地震発生 福岡県支部医療救護班第1班（救護員7名）を玄界島へ派遣
21日	福岡市九電記念体育館内救護所にて医療救護活動（救護員総数106名）～4月1日迄
21日	志賀島での巡回診療（救護員7名）
21日	福岡市西区西浦にて巡回診療（救護員総数10名）～23日迄
24日	福岡市西区西浦救護所にて医療救護活動（救護員総数41名）～4月7日迄
21日	こころのケアを実施 ～4月26日迄 （福岡市東区志賀島 3月23日迄 救護員総数3名、 九電記念体育館 4月26日迄 救護員総数45名）
10月24日	パキスタン北部地震被災者救援事業へ福岡赤十字病院橋本看護師派遣 ～12月18日迄
11月4日	パキスタン北部地震被災者救援事業へ福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～12月28日迄
12月6日	スーダン紛争犠牲者支援事業へ福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～平成18年6月11日迄
12月20日	パキスタン北部地震被災者救援事業へ日本赤十字九州国際看護大学石田助手派遣 ～平成18年2月16日迄
平成18年1月6日	H.E.L.P in JAPAN 2006（日本赤十字九州国際看護大学）～24日迄
8月3日	プライマリー・ヘルスケア事業（フィリピン共和国）へ福岡赤十字病院西野看護師派遣 ～11月14日迄
11月30日	九州八県支部連合赤十字大会（福岡国際会議場）
平成19年1月4日	ケニア洪水救援事業へ福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～2月18日迄
7日	dERU納車
12月5日	日本赤十字社九州血液センター竣工式（久留米市宮の陣）
平成20年1月17日	インドネシア海外保健医療支援事業へ福岡赤十字病院井上医師派遣 ～3月10日迄
18日	H.E.L.P in JAPAN 2008（日本赤十字九州国際看護大学）～3月7日迄

年 月 日	あ ゆ み
6月5日	インドネシア海外保健医療支援事業へ福岡赤十字病院久富看護師派遣 ～9月28日迄
12月4日	福岡県支部創設120周年記念事業「日本赤十字社所蔵名品展」開催（福岡県立美術館）～21日迄
6日	嘉麻赤十字病院70周年記念イベント（嘉麻市）
16日	福岡県支部創設120周年記念赤十字大会・福岡県日赤紺綬会第49回総会（アクロス福岡）
平成21年8月1日	小倉魚町出張所オープン記念式典
24日	アフガニスタン・ミルワイズ地域病院支援に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～平成22年2月26日迄
10月22日	福岡赤十字病院起工式
11月7日	福岡赤十字青年奉仕団50周年記念事業（支部）
18日	福岡県日赤紺綬会創立50周年記念総会（北九州市：ウェルシティ小倉）
平成22年2月22日	ハイチ大地震救援に福岡赤十字病院井上医師派遣 ～3月31日迄
4月20日	ハイチ大地震救援に福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～5月24日迄
6月15日	福岡赤十字病院立柱式
10日	日本赤十字九州国際看護大学開学10周年記念式典（看大・玄海ロイヤルホテル）
11月3日	パキスタン洪水災害救援事業に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～12月7日迄
平成23年1月8日	ウガンダ病院支援事業に福岡赤十字病院井上医師派遣 ～5月1日迄
2月11日	アフガニスタン・ミルワイズ地域病院支援に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～平成23年5月21日迄
3月11日	東日本大震災発生
12日	医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（救護員17名）～3月17日迄 石巻赤十字病院および宮城県内の避難所にて医療救護活動
21日	医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（計2班・救護員15名）～3月27日迄
22日	献血ルーム「おっしょい博多」オープニングセレモニー（博多バスターミナル）
25日	医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（計9班・救護員62名）～5月17日迄
5月15日	東日本大震災救護活動等パネル展示（ソラリアプラザ）～19日迄
19日	医療救護班を石巻赤十字病院（宮城県）へ派遣（計2班・救護員12名）～6月6日迄
26日	ハイチ大地震被災者支援事業に福岡赤十字病院橋本看護師派遣 ～平成24年1月23日迄
6月27日	東日本大震災救護活動等パネル展示（ソラリアプラザ）～29日迄
7月9日	カンボジア救急法普及支援事業最終評価（岩井事業部長 カンボジア派遣）～16日迄
8月1日	AKB48赤十字キャンペーン（福岡サンパレス）
21日	東北復興応援フェア・トークショー（JR博多駅）～25日迄
27日	東北復興応援フェア・トークショー（JR小倉駅）～30日迄
29日	H.E.L.P in JAPAN 2011（日本赤十字九州国際看護大学）～9月16日迄
平成24年8月25日	福岡県赤十字血液センター創立50周年記念式典（アクロス福岡）
11月27日	新救護倉庫・公用車庫完成
平成25年2月26日	朝倉市立蜷城小学校JRC加盟60周年記念式典
21日	福岡赤十字病院竣工落成式
7月5日	第49回献血運動推進全国大会（福岡市 福岡国際会議場）
平成26年7月12日	ミャンマー紛争犠牲者救援事業に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～平成27年3月4日迄
8月22日	ウガンダ北部医療支援事業に福岡赤十字病院井上医師派遣 ～11月30日迄
9月15日	ウガンダ北部医療支援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～平成27年2月8日迄
11月14日	福岡県日赤紺綬会第55周年記念総会（ヒルトン福岡シーホーク）
12月17日	献血ルーム「くろさきクローバー」オープニングセレモニー
平成27年7月3日	ネパール地震救援・復興支援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～7月31日迄
7日	ネパール地震救援・復興支援事業に福岡赤十字病院井上医師派遣 ～8月5日迄
平成28年4月14日	熊本地震災害（余震）発生 医療救護班を熊本県へ派遣（救護員8名）～4月15日迄
16日	熊本地震災害（本震）発生 医療救護班を熊本県へ派遣（計7班・救護員47名）～6月2日迄
平成29年7月5日	九州北部豪雨発生
6日	医療救護班を東峰村宝珠山地区および小石原地区へ派遣（計2班・救護員14名）～7月7日迄
12日	朝倉市避難所2か所に夜間健康支援及びこころのケア要員を述べ125名派遣 ～8月17日迄
11月24日	バングラデシュ南部避難民救援事業のため福岡赤十字病院橋本看護師派遣 ～平成30年1月11日迄
12月6日	バングラデシュ南部避難民救援事業のため福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～平成30年4月12日迄
平成30年6月22日	南スーダン紛争犠牲者支援事業に福岡赤十字病院井ノ口看護師派遣 ～12月24日迄
7月5日	平成30年7月豪雨発生
9日	医療救護班を広島県へ派遣（計2班・救護員14名）～7月16日迄
10日	バングラディッシュ南部避難民救援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～10月15日迄
11月21日	福岡県支部創設130周年赤十字大会・福岡県日赤紺綬会第59回総会（ヒルトン福岡シーホーク）
平成31年2月20日	福岡県支部創設130周年記念「国際救援チャリティコンサート」開催（アクロス福岡）
4月22日	福岡赤十字病院音楽奉仕団（寺坂委員長）による赤十字トワイライトコンサート実施

年 月 日	あ ゆ み
令和元年8月27日	令和元年8月豪雨発生
29日	医療救護班を佐賀県へ派遣（計2班・救護員16名）～8月30日迄
9月16日	ネパール・コミュニティ防災事業の成果確認のため、福岡県支部坂下主事派遣 ～9月27日迄
10月10日	令和元年度日赤紺綬・有功会会長協議会総会（ホテル日航福岡）
11月16日	第16回青少年赤十字福岡県大会開催（支部・大楠小学校）
12月18日	福岡県日赤紺綬会創立60周年記念総会（北九州市：リーガロイヤルホテル小倉）
令和2年1月31日	久留米赤十字在宅サービスセンター事業廃止
2月20日	医療救護班第1班（救護員6名）を横浜港停泊中のクルーズ船へ新型コロナウイルス感染症 対応のため派遣 ～2月22日迄
3月31日	久留米赤十字ケアプランセンター廃止
4月1日	地元放送局とタイアップによる広報活動を行う（令和2年度）
4月20日	新型コロナウイルス感染症に係る宿泊療養施設の宿泊療養者の医療支援 救護員述べ12名派遣 ～5月6日迄
5月7日	緊急事態宣言発出に伴い学童支援のためのハートラルーム開設（～27日迄）
7月3日	令和2年7月豪雨発生
5日	医療救護班を熊本県へ派遣（計5班・救護員31名）～7月23日迄
令和3年2月28日	赤十字防災・献血キャンペーン実施（博多口駅前広場）
3月31日	久留米赤十字会館温水プール・フィットネス事業廃止
9月6日	献血ルーム「天神西通り出張所」オープニングセレモニー
10月1日	オンライン講習の運用開始
10月26日	ハイチ地震救援事業に福岡赤十字病院川口看護師派遣 ～12月5日迄
令和4年3月2日	「ウクライナ人道危機救援金」受付開始 県内各地にてボランティア及び職員による街頭募金実施
4月4日	パレスチナ赤新月社医療支援事業に福岡赤十字病院前澤看護師派遣 ～9月30日迄
10月15日	バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業に福岡赤十字病院橋本看護師派遣 ～令和5年4月13日迄
11月19日	青少年赤十字創設100周年記念大会「第17回青少年赤十字福岡県大会」（大楠小学校）

令和4年度 事業報告書

令和5年5月12日発行

発行 日本赤十字社福岡県支部
〒815-8503 福岡市南区大楠 3-1-1
TEL 092 (523) 1171 (代表)
FAX 092 (521) 2552
HP <https://www.jrc.or.jp/chapter/fukuoka/>